

大学番号：私081

[平成30年度設置]

計画の区分：学部の学科の設置

認可

大東文化大学 スポーツ・健康科学部 看護学科

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人 大東文化学園
令和元年5月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名	学務部
職名・氏名	ガクムフチョウ アオキ キヨミ 学務部長・青木 清美
電話番号	03-5399-7333
（夜間）	03-3935-1110
F A X	03-5399-7334
e-mail	gakumu@jm.daito.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に（ ）書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、平成31年4月2日付事務連絡「履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

スポーツ・健康科学部

<看護学科>	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	19
4. 既設大学等の状況	21
5. 教員組織の状況	24
6. 附帯事項等に対する履行状況等	44
7. その他全般的事項	45

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人 大東文化学園

(2) 大学名

大東文化大学

(3) 大学の位置

〒355-8501 埼玉県東松山市岩殿560
(本部：〒175-8571 東京都板橋区高島平1-9-1)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	オオハシ ヒデイツ 大橋英五 (平成27年6月30日)	ナカゴメ ヒデキ 中込秀樹 (平成30年6月30日)	任期満了による改選(元)
学長	カドワキ ヒロフミ 門脇廣文 (平成29年4月1日)		
学部長	カツマタ ヒロム 勝又宏 (平成29年4月1日)	スズキ アキラ 鈴木明 (平成31年4月1日)	任期満了による改選(元)
学科長等	スギモリ ヒロキ 杉森裕樹 (平成30年4月1日)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 平成30年度に報告済の内容 → (30)

令和元年度に報告する内容 → (元)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
 ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
 ・ 様式は、平成27年度開設の4年制の学科の完成年度を超えて報告する場合(令和元年度までの5年間)ですが、完成年度を超えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
 ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	
スポーツ・健康科学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係(看護学関係)	4年	100人	一年次 一人	400人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
 ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」にその旨記載してください。
 ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成30年度		令和元年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期			
A 入学定員	100人	0人	100人	0人	100	0	1.00倍	一倍	
	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)			
	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]	[-]			
志願者数	653	0	532	0	(-)	(-)			
	(-)	(-)	(-)	(-)	[-]	[-]			
受験者数	600	0	495	0	(-)	(-)			
	(-)	(-)	(-)	(-)	[-]	[-]			
合格者数	188	0	210	0	(-)	(-)			
	(-)	(-)	(-)	(-)	[-]	[-]			
B 入学者数	110	0	90	0	(-)	(-)			
	(-)	(-)	(-)	(-)	[-]	[-]			
入学定員超過率 B/A	1.1		0.9						

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)。
 ・ ()内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 ・ 転入学生は記入しないでください。
 ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。なお、計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。
 ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「-」を記入してください。

(5) -③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成30年度		令和元年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1年次	110 [-] (-)	- [-] (-)	92 [-] (2)	- [-] (-)	
2年次	/		107 [-] (-)	- [-] (-)	
3年次	/		/		
4年次	/		/		
計	110 [-] (-)		199 [-] (2)		

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「-」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「-」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「-」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成30年度	110人	1人	平成30年度	1人	0人	・他の教育機関への入学・転学(1人)
令和元年度	199人	0人	平成30年度	0人	0人	
			令和元年度	0人	0人	
合計		1人		1人	0人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{110} = \boxed{0.9} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{199} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<スポーツ・健康科学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合基礎科目	大学入門	基礎ゼミナール	1通	2			7	6	7	7	14	
		コモンスキル	1前	1			3	5	7	7	14	
		情報処理	1前	1			1					
		人間関係論	1前		1							兼1
	小計(4)科目	-	4	1	0	7	6	7	7	14	1	
	第一外国語	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					1			兼2
		英語コミュニケーションⅡ	1後	1					1			兼2
		英語コミュニケーションⅢ	2前	1					1			兼2
		英語コミュニケーションⅣ	2後	1					1			兼2
		医療英語	2前		1				1			
		英語ゼミナール	4前		1				1			
	小計(6)科目	-	4	2	0			1			2	
	第二外国語	中国語A	1・2前		1							兼1
		中国語B	1・2後		1							兼1
		コリア語A	1・2前		1							兼1
		コリア語B	1・2後		1							兼1
		フランス語A	1・2前		1							兼1
		フランス語B	1・2後		1							兼1
		ドイツ語A	1・2前		1							兼1
ドイツ語B		1・2後		1							兼1	
小計(8)科目	-	0	8	0						4		
全学共通科目	A系 「人間と文化」(人文系)	哲学A	1・2・3・4前・後	2								兼2
		哲学B	1・2・3・4前・後	2								兼2
		文学A	1・2・3・4前・後	2								兼2
		文学B	1・2・3・4前・後	2								兼2
		論理学A	1・2・3・4前・後	2								兼1
		論理学B	1・2・3・4前・後	2								兼1
		倫理学A	1・2・3・4前・後	2								兼2
		倫理学B	1・2・3・4前・後	2								兼2
		宗教学A	1・2・3・4前・後	2								兼1
		宗教学B	1・2・3・4前・後	2								兼1
		歴史学A	1・2・3・4前・後	2								兼3
		歴史学B	1・2・3・4前・後	2								兼3
		考古学A	1・2・3・4前・後	2								兼1
		考古学B	1・2・3・4前・後	2								兼1
		文化史A	1・2・3・4前・後	2								兼1
		文化史B	1・2・3・4前・後	2								兼1
		芸術学A	1・2・3・4前・後	2								兼4
		芸術学B	1・2・3・4前・後	2								兼4
		地理学A	1・2・3・4前・後	2								兼2
地理学B	1・2・3・4前・後	2								兼2		
言語学A	1・2・3・4前・後	2								兼2		
言語学B	1・2・3・4前・後	2								兼2		

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合基礎科目	大学入門	基礎ゼミナール	1通	2			7	6	7	6	14	
		コモンスキル	1前	1			3	5	7	6	14	
		情報処理	1前	1			1					
		人間関係論	1前		1							兼1
	小計(4)科目	-	4	1	0	7	6	7	6	14	1	
	第一外国語	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					1			兼2
		英語コミュニケーションⅡ	1後	1					1			兼2
		英語コミュニケーションⅢ	2前	1					1			兼2
		英語コミュニケーションⅣ	2後	1					1			兼2
		医療英語	2前		1				1			
		英語ゼミナール	4前		1				1			
	小計(6)科目	-	4	2	0			1			2	
	第二外国語	中国語A	1・2前		1							兼1
		中国語B	1・2後		1							兼1
		コリア語A	1・2前		1							兼1
		コリア語B	1・2後		1							兼1
		フランス語A	1・2前		1							兼1
		フランス語B	1・2後		1							兼1
		ドイツ語A	1・2前		1							兼1
ドイツ語B		1・2後		1							兼1	
小計(8)科目	-	0	8	0						4		
全学共通科目	A系 「人間と文化」(人文系)	哲学A	1・2・3・4前・後	2								兼2
		哲学B	1・2・3・4前・後	2								兼2
		文学A	1・2・3・4前・後	2								兼2
		文学B	1・2・3・4前・後	2								兼2
		論理学A	1・2・3・4前・後	2								兼1
		論理学B	1・2・3・4前・後	2								兼1
		倫理学A	1・2・3・4前・後	2								兼2
		倫理学B	1・2・3・4前・後	2								兼2
		宗教学A	1・2・3・4前・後	2								兼1
		宗教学B	1・2・3・4前・後	2								兼1
		歴史学A	1・2・3・4前・後	2								兼3
		歴史学B	1・2・3・4前・後	2								兼3
		考古学A	1・2・3・4前・後	2								兼1
		考古学B	1・2・3・4前・後	2								兼1
		文化史A	1・2・3・4前・後	2								兼1
		文化史B	1・2・3・4前・後	2								兼1
		芸術学A	1・2・3・4前・後	2								兼3
		芸術学B	1・2・3・4前・後	2								兼3
		地理学A	1・2・3・4前・後	2								兼2
地理学B	1・2・3・4前・後	2								兼2		
言語学A	1・2・3・4前・後	2								兼2		
言語学B	1・2・3・4前・後	2								兼2		

【認可時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目	法学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	法学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	社会学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	社会学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	政治学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	政治学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	経済学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	経済学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	心理学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	心理学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	教育学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	教育学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	民俗学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	民俗学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	文化人類学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	文化人類学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	数学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	数学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	地学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	地学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1
生物学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2	
生物学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2	
生態学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1	
生態学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1	
現代科学A	1-2・3-4 前・後	2								兼3	
現代科学B	1-2・3-4 前・後	2								兼3	
情報科学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2	
情報科学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2	
自然科学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1	
自然科学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1	

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
総合基礎科目 全学共通科目 基本科目	法学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	法学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	社会学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	社会学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	政治学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	政治学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	経済学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	経済学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	心理学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	心理学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	教育学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	教育学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2
	民俗学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	民俗学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	文化人類学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	文化人類学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	数学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	数学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	地学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1
	地学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1
生物学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2	
生物学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2	
生態学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1	
生態学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1	
現代科学A	1-2・3-4 前・後	2								兼3	
現代科学B	1-2・3-4 前・後	2								兼3	
情報科学A	1-2・3-4 前・後	2								兼2	
情報科学B	1-2・3-4 前・後	2								兼2	
自然科学A	1-2・3-4 前・後	2								兼1	
自然科学B	1-2・3-4 前・後	2								兼1	

【認可時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合基礎科目 全学共通科目 課題(テーマ)科目・自由科目(E系)	D系「健康とスポーツ」(保健体育系) 総合体育A	1前	1									兼5	
	総合体育B	1後	1									兼5	
	健康スポーツ科学A	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	健康スポーツ科学B	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	体育実技A	2・3, 4前	1									兼3	
	体育実技B	2・3, 4後	1									兼3	
	野外実習A	1-2, 3-4 前・後	1									兼1	
	野外実習B	1-2, 3-4 前・後	1									兼1	
	第1群 地域・国家・民族の考察A	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	地域・国家・民族の考察B	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	第2群 女性・子ども・老人への視点A	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	女性・子ども・老人への視点B	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	第3群 人権・民主主義・平和を考えるA	1-2, 3-4 前・後	2									兼1	
	人権・民主主義・平和を考えるB	1-2, 3-4 前・後	2									兼1	
	第4群 現代社会の諸問題A	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	現代社会の諸問題B	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	第5群 異文化・世界にふれるA	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	異文化・世界にふれるB	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	第6群 自己・人間をみつめるA	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	自己・人間をみつめるB	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	第7群 キャリアデザインA	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	キャリアデザインB	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	第8群 全学共通特殊講義A	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	全学共通特殊講義B	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	小計(76)科目	-	-	2	144	0							58

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任		
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手			
総合基礎科目 全学共通科目 課題(テーマ)科目・自由科目(E系)	D系「健康とスポーツ」(保健体育系) 総合体育A	1前	1									兼5	
	総合体育B	1後	1									兼5	
	健康スポーツ科学A	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	健康スポーツ科学B	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	体育実技A	2・3, 4前	1									兼3	
	体育実技B	2・3, 4後	1									兼3	
	野外実習A	1-2, 3-4 前・後	1									兼1	
	野外実習B	1-2, 3-4 前・後	1									兼1	
	第1群 地域・国家・民族の考察A	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	地域・国家・民族の考察B	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	第2群 女性・子ども・老人への視点A	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	女性・子ども・老人への視点B	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	第3群 人権・民主主義・平和を考えるA	1-2, 3-4 前・後	2									兼1	
	人権・民主主義・平和を考えるB	1-2, 3-4 前・後	2									兼1	
	第4群 現代社会の諸問題A	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	現代社会の諸問題B	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	第5群 異文化・世界にふれるA	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	異文化・世界にふれるB	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	第6群 自己・人間をみつめるA	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	自己・人間をみつめるB	1-2, 3-4 前・後	2									兼4	
	第7群 キャリアデザインA	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	キャリアデザインB	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	第8群 全学共通特殊講義A	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	全学共通特殊講義B	1-2, 3-4 前・後	2									兼2	
	小計(76)科目	-	-	2	144	0							58

【認可時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2								兼1
	人体の構造と機能Ⅱ	1後	2								兼1
	人間と栄養	1後	1								兼1
	微生物学	1後	1								兼1
	生化学	1後	1								兼1
	臨床心理学概論	2前	1								兼1
	発達心理学	2後	1								兼1
小計(7)科目	-	8	1	0							5
疾病と治療	疾病・治療学Ⅰ(急性期・総論/運動・感覚器)	2前	1								兼1
	疾病・治療学Ⅱ(急性期・臓器別疾患)	2後	1								兼1
	疾病・治療学Ⅲ(慢性期・総論/全身疾患)	2前	1			1					
	疾病・治療学Ⅳ(終末期・緩和医療)	3前	1				1				
	疾病・治療学Ⅴ(小児・性と生殖医療)	2後	1								兼1
	疾病・治療学Ⅵ(精神医療)	3前	1				1				
	病態論	1後	1				1				
	薬理学	2後	1								兼1
	救急救命Ⅰ	1前	1								兼1
	救急救命Ⅱ	2前	1								兼1
	スポーツ医学概論	4前	1								兼1
	東洋医学概論(漢方)	3前	1				2				
	臨床検査学概論	2前	1								兼1
小計(13)科目	-	11	2	0	1	2	0	0	0		5
地域社会と医療福祉	郷土論(埼玉学)	1前	1								兼1
	公衆衛生学	1後	1			1					
	保健医療統計学	1後	1			1					
	医療情報学	1後	1			1					
	健康科学実践	2前	1								兼5
	保健医療福祉制度論	2前	1								兼1
	社会福祉学	2後	1								兼1
	生命倫理学	2前	1								兼1
	チーム医療論	2前	1			2	1	1			兼1
小計(9)科目	-	7	2	0	3	1	1				9

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
人体の構造と機能	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2			1					
	人体の構造と機能Ⅱ	1後	2			1					
	人間と栄養	1後	1								兼1
	微生物学	1後	1								兼1
	生化学	1後	1								兼1
	臨床心理学概論	2前	1								兼1
	発達心理学	2後	1								兼1
小計(7)科目	-	8	1	0	2						4
疾病と治療	疾病・治療学Ⅰ(急性期・総論/運動・感覚器)	2前	1								兼1
	疾病・治療学Ⅱ(急性期・臓器別疾患)	2後	1				1				
	疾病・治療学Ⅲ(慢性期・総論/全身疾患)	2前	1				1				
	疾病・治療学Ⅳ(終末期・緩和医療)	3前	1					1			
	疾病・治療学Ⅴ(小児・性と生殖医療)	2後	1					1	1		
	疾病・治療学Ⅵ(精神医療)	3前	1						1		
	病態論	1後	1						1		
	薬理学	2後	1								兼1
	救急救命Ⅰ	1前	1								兼1
	救急救命Ⅱ	2前	1								兼1
	スポーツ医学概論	4前	1								兼1
	東洋医学概論(漢方)	3前	1						2		
	臨床検査学概論	2前	1								兼1
小計(13)科目	-	11	2	0	1	2	0	0	0		4
地域社会と医療福祉	郷土論(埼玉学)	1前	1								兼1
	公衆衛生学	1後	1				1				
	保健医療統計学	1後	1				1				
	医療情報学	1後	1				1				
	健康科学実践	2前	1								兼5
	保健医療福祉制度論	2前	1								兼1
	社会福祉学	2後	1					1			兼1
	生命倫理学	2前	1					1			兼1
	チーム医療論	2前	1				2	1	1		兼1
小計(9)科目	-	7	2	0	3	1	1				9

【認可時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	(看護の実践Ⅲ)	クリティカルケア論	3前	1			3	1				兼1
		地域リハビリテーション看護概論	3前	1								
		緩和ケア論	3前	1			1	2	1			
		がん看護	3前	1			1	1	1			
		看護実践能力強化演習	4後	1			1	3	4	7	3	
	小計(5)科目	-	2	3	0	2	5	4	7	3	1	
	看護の統合	東洋文化と看護	4前	1				2				兼1
		看護研究Ⅰ	3前	1			5					
		看護研究Ⅱ	4通	2			5	5	6	6		
		家族看護学	4前	1				2				
看護管理学概論		4前	1			1						
国際看護学		4前	1				1	1				
医療安全論		4前	1			1						
災害看護学		4前	1				1	1	1			
小計(8)科目	-	5	4	0	6	6	7	6		1		
合計(184科目)			-	106	107	0	7	6	7	7	14	78
卒業要件及び履修方法												
『総合基礎科目』のうち20単位以上(必修科目10単位、選択科目10単位以上)、『専門基礎科目』のうち29単位以上(必修科目26単位、選択科目3単位以上)、『専門科目』のうち75単位以上(必修科目70単位、選択科目5単位)の合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:42単位(年間))												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	(看護の実践Ⅲ)	クリティカルケア論	3前	1			3	1				兼1
		地域リハビリテーション看護概論	3前	1								
		緩和ケア論	3前	1			1	2	1			
		がん看護	3前	1			1	1	1			
		看護実践能力強化演習	4後	1			1	3	4	6	3	
	小計(5)科目	-	2	3	0	2	5	4	6	3	1	
	看護の統合	東洋文化と看護	4前	1				2				兼1
		看護研究Ⅰ	3前	1			6					
		看護研究Ⅱ	4通	2			6	5	6	5		
		家族看護学	4前	1				2				
看護管理学概論		4前	1			1						
国際看護学		4前	1				1	1				
医療安全論		4前	1			1						
災害看護学		4前	1				1	1	1			
小計(8)科目	-	5	4	0	7	6	7	5		1		
合計(184科目)			-	106	107	0	7	6	7	6	14	74
卒業要件及び履修方法												
『総合基礎科目』のうち20単位以上(必修科目10単位、選択科目10単位以上)、『専門基礎科目』のうち29単位以上(必修科目26単位、選択科目3単位以上)、『専門科目』のうち75単位以上(必修科目70単位、選択科目5単位)の合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:42単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は太字の赤字としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
総合基礎科目	大学入門	基礎ゼミナール	1通	2			7	6	7	6	14	
		コモンスキル	1前	1			3	5	7	6	14	
		情報処理	1前	1			1					
		人間関係論	1前		1							兼1
		小計(4)科目	-	4	1	0	7	6	7	6	14	1
	第一外国語	英語コミュニケーションⅠ	1前	1					1			兼2
		英語コミュニケーションⅡ	1後	1					1			兼2
		英語コミュニケーションⅢ	2前	1					1			兼2
		英語コミュニケーションⅣ	2後	1					1			兼2
		医療英語	2前		1				1			
		英語ゼミナール	4前		1				1			
		小計(6)科目	-	4	2	0			1			2
	第二外国語	中国語A	1・2前		1							兼1
		中国語B	1・2後		1							兼1
		コリア語A	1・2前		1							兼1
		コリア語B	1・2後		1							兼1
		フランス語A	1・2前		1							兼1
		フランス語B	1・2後		1							兼1
		ドイツ語A	1・2前		1							兼1
		ドイツ語B	1・2後		1							兼1
小計(8)科目	-	0	8	0						4		
基本スキル科目	A系「人間と文化」(人文系)	哲学A	1・2・3・4前・後		2							兼2
		哲学B	1・2・3・4前・後		2							兼2
		文学A	1・2・3・4前・後		2							兼2
		文学B	1・2・3・4前・後		2							兼2
		論理学A	1・2・3・4前・後		2							兼1
		論理学B	1・2・3・4前・後		2							兼1
		倫理学A	1・2・3・4前・後		2							兼2
		倫理学B	1・2・3・4前・後		2							兼2
		宗教学A	1・2・3・4前・後		2							兼1
		宗教学B	1・2・3・4前・後		2							兼1
	B系「人間と文化」(人文系)	歴史学A	1・2・3・4前・後		2							兼3
		歴史学B	1・2・3・4前・後		2							兼3
		考古学A	1・2・3・4前・後		2							兼1
		考古学B	1・2・3・4前・後		2							兼1
		文化史A	1・2・3・4前・後		2							兼1
		文化史B	1・2・3・4前・後		2							兼1
		芸術学A	1・2・3・4前・後		2							兼3
		芸術学B	1・2・3・4前・後		2							兼3
		地理学A	1・2・3・4前・後		2							兼2
		地理学B	1・2・3・4前・後		2							兼2
B系「人間と文化」(人文系)	言語学A	1・2・3・4前・後		2							兼2	
	言語学B	1・2・3・4前・後		2							兼2	

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
総合基礎科目 全学共通科目	B系「社会と生活」(社会系)	法学A 1-2・3-4 前・後	2								兼2
		法学B 1-2・3-4 前・後	2								兼2
		社会学A 1-2・3-4 前・後	2								兼2
		社会学B 1-2・3-4 前・後	2								兼2
		政治学A 1-2・3-4 前・後	2								兼2
		政治学B 1-2・3-4 前・後	2								兼2
		経済学A 1-2・3-4 前・後	2								兼1
		経済学B 1-2・3-4 前・後	2								兼1
		心理学A 1-2・3-4 前・後	2								兼2
		心理学B 1-2・3-4 前・後	2								兼2
	教育学A 1-2・3-4 前・後	2								兼2	
	教育学B 1-2・3-4 前・後	2								兼2	
	民俗学A 1-2・3-4 前・後	2								兼1	
	民俗学B 1-2・3-4 前・後	2								兼1	
	文化人類学A 1-2・3-4 前・後	2								兼1	
	文化人類学B 1-2・3-4 前・後	2								兼1	
	C系「自然と環境」(自然系)	数学A 1-2・3-4 前・後	2								兼1
		数学B 1-2・3-4 前・後	2								兼1
		地学A 1-2・3-4 前・後	2								兼1
		地学B 1-2・3-4 前・後	2								兼1
生物学A 1-2・3-4 前・後		2								兼2	
生物学B 1-2・3-4 前・後		2								兼2	
生態学A 1-2・3-4 前・後		2								兼1	
生態学B 1-2・3-4 前・後		2								兼1	
現代科学A 1-2・3-4 前・後		2								兼3	
現代科学B 1-2・3-4 前・後		2								兼3	
情報科学A 1-2・3-4 前・後	2								兼2		
情報科学B 1-2・3-4 前・後	2								兼2		
自然科学A 1-2・3-4 前・後	2								兼1		
自然科学B 1-2・3-4 前・後	2								兼1		

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
総合基礎科目	D系「健康とスポーツ」(保健体育系)												
	総合体育A	1前	1									兼5	
	総合体育B	1後	1									兼5	
	健康スポーツ科学A	1・2・3・4 前・後	2									兼4	
	健康スポーツ科学B	1・2・3・4 前・後	2									兼4	
	体育実技A	2・3・4前	1									兼3	
	体育実技B	2・3・4後	1									兼3	
	野外実習A	1・2・3・4 前・後	1									兼1	
	野外実習B	1・2・3・4 前・後	1									兼1	
	第1群	地域・国家・民族の考察A	1・2・3・4 前・後	2									兼2
	第1群	地域・国家・民族の考察B	1・2・3・4 前・後	2									兼2
	第2群	女性・子ども・老人への視点A	1・2・3・4 前・後	2									兼2
	第2群	女性・子ども・老人への視点B	1・2・3・4 前・後	2									兼2
	第3群	人権・民主主義・平和を考えるA	1・2・3・4 前・後	2									兼1
	第3群	人権・民主主義・平和を考えるB	1・2・3・4 前・後	2									兼1
	第4群	現代社会の諸問題A	1・2・3・4 前・後	2									兼2
	第4群	現代社会の諸問題B	1・2・3・4 前・後	2									兼2
	第5群	異文化・世界にふれるA	1・2・3・4 前・後	2									兼4
	第5群	異文化・世界にふれるB	1・2・3・4 前・後	2									兼4
	第6群	自己・人間をみつめるA	1・2・3・4 前・後	2									兼4
	第6群	自己・人間をみつめるB	1・2・3・4 前・後	2									兼4
	第7群	キャリアデザインA	1・2・3・4 前・後	2									兼2
	第7群	キャリアデザインB	1・2・3・4 前・後	2									兼2
	第8群	全学共通特殊講義A	1・2・3・4 前・後	2									兼2
	第8群	全学共通特殊講義B	1・2・3・4 前・後	2									兼2
		小計(76)科目	-	2	144	0							58

【平成30年度】

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼 任 ・ 兼 担		
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手			
専門基礎科目	人体の構造と機能Ⅰ	1前	2									兼1	
	人体の構造と機能Ⅱ	1後	2									兼1	
	人間と栄養	1後	1									兼1	
	微生物学	1後	1									兼1	
	生化学	1後	1									兼1	
	臨床心理学概論	2前	1									兼1	
	発達心理学	2後	1	1								兼1	
	小計(7)科目	-	8	1	0							5	
	疾病と治療	疾病・治療学Ⅰ (急性期・総論/ 運動・感覚器)	2前	1									兼1
	疾病と治療	疾病・治療学Ⅱ (急性期・臓器別疾 患)	2後	1									兼1
	疾病と治療	疾病・治療学Ⅲ (慢性期・総論/全身 疾患)	2前	1			1						
	疾病と治療	疾病・治療学Ⅳ (終末期・緩和医療)	3前	1				1					
	疾病と治療	疾病・治療学Ⅴ (小児・性と生殖医 療)	2後	1									兼1
	疾病と治療	疾病・治療学Ⅵ (精神医療)	3前	1				1					
	疾病と治療	病態論	1後	1				1					
	疾病と治療	薬理学	2後	1									兼1
	疾病と治療	救急救命Ⅰ	1前	1									兼1
	疾病と治療	救急救命Ⅱ	2前	1	1								兼1
	疾病と治療	スポーツ医学概論	4前	1									兼1
	疾病と治療	東洋医学概論(漢方)	3前	1				2					
	疾病と治療	臨床検査学概論	2前	1									兼1
	疾病と治療	小計(13)科目	-	11	2	0	1	2	0	0	0		5
	地域社会と医療福祉	郷土論(埼玉学)	1前	1									兼1
	地域社会と医療福祉	公衆衛生学	1後	1			1						
	地域社会と医療福祉	保健医療統計学	1後	1			1						
	地域社会と医療福祉	医療情報学	1後	1			1						
	地域社会と医療福祉	健康科学実践	2前	1									兼5
	地域社会と医療福祉	保健医療福祉制度論	2前	1									兼1
	地域社会と医療福祉	社会福祉学	2後	1	1								兼1
	地域社会と医療福祉	生命倫理学	2前	1	1								兼1
	地域社会と医療福祉	チーム医療論	2前	1			2	1	1				兼1
	地域社会と医療福祉	小計(9)科目	-	7	2	0	3	1	1				9

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
看護の基盤	基盤看護学概論	1前	1			1						
	生活支援技術論Ⅰ	1後	1			1	2	1	1	3		
	生活支援技術論Ⅱ	1後	1			1	2	1	1	3		
	医療支援技術論Ⅰ	2前	1			1	1	1	1	3		
	医療支援技術論Ⅱ	2後	1			1	1	1	1	3		
	看護方法論	1後	1			2	2	1	1	3		
	看護理論	1前	1			1						
	看護倫理	2後	1			1						
	看護コミュニケーション論	2前	1			3	5	7	6	14		
	基盤看護学実習Ⅰ	1前	1			2	2	1	1	3		
	基盤看護学実習Ⅱ	2後	2			2	1	1	3	5		
小計(11)科目	-	12	0	0	4	5	7	6	14			
看護の実践Ⅰ（理論と方法）	成人看護学概論	2前	1			1						
	成人看護学方法論Ⅰ（急性期）	2後	1				1		1			
	成人看護学方法論Ⅱ（慢性期）	2後	1			1		1	1			
	成人看護学演習	3前	1			1	1	1	2	3		
	老年看護学概論	2前	1			1						
	老年看護学方法論Ⅰ（医療支援看護）	2後	1			1	1					
	老年看護学方法論Ⅱ（生活支援看護）	3前	1			1	1			2		
	老年看護学演習	3前	1			1	1			2		
	小児看護学概論	2前	1			1						
	小児看護学方法論	2後	2				1	1				
	小児看護学演習	3前	1			1	1			3		
	母性看護学概論	2前	1			1						
	母性看護学方法論	2後	2			1		1	1			
	母性看護学演習	3前	1			1	1	1	1	3		
	リプロダクティブヘルス看護学	2前	1			2	1					
	精神看護学概論	2前	1			1	1					
	精神看護学方法論	2後	2			1	1	1				
	精神看護学演習	3前	1			1	1	1	1	1		
	地域看護学概論	1後	1			1					兼0	
	地域健康支援論	2前	1			1	1	1			兼1	
	在宅看護学概論	2前	1			1						
	在宅看護学方法論	2後	1			1	1	1	1			
	在宅看護学演習	3前	1			1	1	1	1	2		
	地域包括ケア概論	1後	1			2	1				兼0	
	地域包括ケア方法論	3後	1			2	1	1		5	兼1	
	地域包括ケア演習	4前	1			1	3	1		11	兼1	
小計(26)科目	-	29	0	0	5	5	5	5	14	1		
看護の実践Ⅱ（臨地実習）	成人看護学実習Ⅰ（急性期）	3後	3				1		2	1		
	成人看護学実習Ⅱ（慢性期）	3後	3			1		1		2		
	老年看護学実習Ⅰ	2前	1			1	2	1	3	13		
	老年看護学実習Ⅱ	3後	3			1	1			2		
	小児看護学実習	3後	2				1	1		3		
	母性看護学実習	3後	2			1		1	1	3		
	精神看護学実習	3後	2					1	1	1		
	在宅看護学実習	3後	2				1	1	1	2		
	地域包括ケア実習	4前	2			1	1	2	5	11		
	統合実習	4前	2			3	5	6	6	14		
小計(10)科目	-	22	0	0	4	5	6	6	14			

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門科目	(看護の実践Ⅲ)	クリティカルケア論	3前	1			3	1				兼1
		地域リハビリテーション看護概論	3前	1								
		緩和ケア論	3前	1			1	2	1			
		がん看護	3前	1			1	1	1			
		看護実践能力強化演習	4後	1			1	3	4	6	3	
	小計(5)科目	-	2	3	0	2	5	4	6	3	1	
	看護の統合	東洋文化と看護	4前	1				2				兼1
		看護研究Ⅰ	3前	1			5					
		看護研究Ⅱ	4通	2			5	5	6	5		
		家族看護学	4前	1				2				
		看護管理学概論	4前	1			1					
		国際看護学	4前	1				1	1			
		医療安全論	4前	1			1					
		災害看護学	4前	1				1	1	1		
	小計(8)科目	-	5	4	0	6	6	7	5		1	
合計(184科目)	-	106	107	0	7	6	7	6	14	76		
卒業要件及び履修方法												
『総合基礎科目』のうち20単位以上(必修科目10単位、選択科目10単位以上)、『専門基礎科目』のうち29単位以上(必修科目26単位、選択科目3単位以上)、『専門科目』のうち75単位以上(必修科目70単位、選択科目5単位)の合計124単位以上を修得すること。(履修科目の登録の上限:42単位(年間))												

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、「基礎ゼミナール」の専任教員配置を「助教7」から「助教6」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、「コモンスキル」の専任教員配置を「助教7」から「助教6」に変更。
- ・中垣恒太郎兼担教授就任辞退の理由により、「芸術学A」および「芸術学B」の兼任・兼任教員配置を「兼4」から「兼3」にそれぞれ変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退及び須佐公子准教授担当科目追加の理由により、「生活支援技術論Ⅰ」の専任教員配置を「准教授1」から「准教授2」、「助教2」から「助教1」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退及び須佐公子准教授担当科目追加の理由により、「生活支援技術論Ⅱ」の専任教員配置を「准教授1」から「准教授2」、「助教2」から「助教1」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、「医療支援技術論Ⅰ」の専任教員配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、「医療支援技術論Ⅱ」の専任教員配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退及び須佐公子准教授担当科目追加の理由により、「看護方法論」の専任教員配置を「准教授1」から「准教授2」、「助教2」から「助教1」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、「看護コミュニケーション論」の専任教員配置を「助教7」から「助教6」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退及び須佐公子准教授担当科目追加の理由により、「基盤看護学実習Ⅰ」の専任教員配置を「准教授1」から「准教授2」、「助教2」から「助教1」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、「基盤看護学実習Ⅱ」の専任教員配置を「助教4」から「助教3」に変更。
- ・福島道子兼任講師の就任年度を平成30年4月から平成31年4月に変更し、担当科目を変更した理由により、「地域看護学概論」の兼任教員配置数を「兼1」から「兼0」に変更。
- ・福島道子兼任講師の就任年度を平成30年4月から平成31年4月に変更し、担当科目を変更した理由により、「地域包括ケア概論」の兼任教員配置数を「兼1」から「兼0」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、「地域包括ケア実習」の専任教員配置を「助教6」から「助教5」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、「統合実習」の専任教員配置を「助教6」から「助教5」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、「看護実践能力強化演習」の専任教員配置を「助教7」から「助教5」に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、「看護研究Ⅱ」の専任教員配置を「助教6」から「助教5」に変更。

【令和元年度】

- ・熊谷（金岡）順子兼任講師就任辞退に伴う後任として篠塚勝正兼任講師が就任し「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」「英語コミュニケーションⅣ」を担当。
 - ・「人体の構造と機能Ⅰ」及び「人体の構造と機能Ⅱ」の科目担当を杉森裕樹教授に変更した理由により、専任教員配置を「教授0」から「教授1」とし、兼任教員の配置をなしとする。
 - ・藤縄玲子兼任講師就任辞退に伴い「生化学」の担当教員を佐藤匡昭兼任講師に変更。
 - ・「疾病・治療学Ⅱ（急性期・臓器別疾患）」の科目担当を杉森裕樹教授に変更した理由により、専任教員配置を「教授0」から「教授1」とし、兼任教員の配置をなしとする。
 - ・「疾病・治療学Ⅶ（小児・性と生殖医療）」の科目担当を杉森裕樹教授及び北田志郎准教授に変更した理由により、専任教員配置を「教授0」から「教授1」、「准教授0」から「准教授1」とし、兼任教員の配置をなしとする。
 - ・大城聡兼担講師の就任年度を平成30年4月から令和2年4月に変更した理由により、「薬理学」の担当教員を吉澤一巳兼任講師に変更。
 - ・福島道子兼任講師の就任年度を平成30年4月から令和2年4月に変更し、担当科目を変更した理由により、「地域看護学概論」の兼任教員の配置をなしとする。
 - ・福島道子兼任講師の就任年度を平成30年4月から令和2年4月に変更し、担当科目を変更した理由により、「地域包括ケア概論」の兼任教員の配置をなしとし、王（磯山）麗華准教授が担当する（平成30年7月教員審査受審済）。
 - ・杉森裕樹教授担当科目追加の理由により「看護研究Ⅰ」及び「看護研究Ⅱ」の専任教員配置を「教授5」から「教授6」に変更。
- ・専門科目「看護の実践Ⅱ（臨地実習）」に関する区分の小計に誤記載がありましたので、助手の小計人数を9人から14人に訂正します。

- (注) ・ 2(1) ① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
86 科目	97 科目	0 科目	183 科目	86 科目 [0]	97 科目 [0]	0 科目 [0]	183 科目 [0]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1						
2	該当なし					
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能なかぎり具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{183} = \boxed{} 0\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考			
(1) 校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体 校地等「その他」… 「校地面積」不算入施設 用地が含まれていた ことによる修正(30)			
	校舎敷地	66,525.45 m ²	0 m ²	0 m ²	66,525.45 m ²				
	運動場用地	47,531.69 m ²	0 m ²	0 m ²	47,531.69 m ²				
	小 計	114,057.14 m ²	0 m ²	0 m ²	114,057.14 m ²				
	そ の 他	161,612.31 +62,220.71	0 m ²	0 m ²	161,612.31 +62,220.71				
合 計	275,669.45 -276,277.85	0 m ²	0 m ²	275,669.45 -276,277.85					
(2) 校 舎	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	115,205.21 -115,154.57	0 m ²	0 m ²	115,205.21 -115,154.57	東松山校舎2号館増築部 完成による増加 (元)				
	(111,810.57 m ²)	(0 m ²)	(0 m ²)	(111,810.57 m ²)					
(3) 教 室 等	講 義 室	演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	既設学部・学科との共有 を含む 東松山校舎2号館増築部 完成または用途目的変更 による増減(元)			
	116 113 室	28 27 室	14 室	17 室 (補助職員 5人)	6 室 (補助職員 4人)				
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		助教の研究室を共同研究 室から個室に変更したた め(元)			
	スポーツ・健康科学部 看護学科			26 -25 室					
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 種	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	大学全体での共用分を 含む 図書 531,928冊 図書 522,693冊 〔94,084冊〕 〔92,993冊〕 学術雑誌 46,732種 学術雑誌 50,972種 〔43,261種〕 〔47,527種〕 図書の増加は大学全体の 共用分購入点数追加によ る(30) 電子ジャーナルは“Hein Online”の収録タイトル数減 少に伴い、点数を修正。学 術雑誌減少については大 学全体の共用分購入点数 変更に伴う修正(30) 視聴覚資料の増加は大学 全体の共用分購入点数追 加による(30) 機械・器具点数はリネン類 細分化やシミュレーター機 材付属品等の追加により修 正(30)	
	スポーツ・ 健康科学部 看護学科	543,878 [95,255] 536,433 [94,598] 527,080 [92,905] (543,878 [95,255])	55,378 [51,880] 46,770 [43,279] 51,041 [47,555] (55,378 [51,880])	51,355 [51,332] 42,754 [42,731] 47,020 [46,999] (51,355 [51,332])	18,973 18,959 18,856 (18,973)	5,275 4,952 2,307 (5,275)	0 (0)		
	計	543,878 [95,255] 536,433 [94,598] 527,080 [92,905] (543,878 [95,255])	55,378 [51,880] 46,770 [43,279] 51,041 [47,555] (55,378 [51,880])	51,355 [51,332] 42,754 [42,731] 47,020 [46,999] (51,355 [51,332])	18,973 18,959 18,856 (18,973)	5,275 4,952 2,307 (5,275)	0 (0)		

(6) 図書館	面積		閲覧座席数		収納可能冊数		大学全体			
	14,659.66 m ²		1,759 席		1,750,600					
(7) 体育館	面積		体育館以外のスポーツ施設の概要				面積…申請時未計上分を追加修正(30)			
	13,956.56 m ² 11,443.20 m ²		野球場、ラグビー場、テニスコート、弓道場							
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	経費の見積り	区分	開設年度	完成年度	区分	開設前年度	開設年度	完成年度	共同研究費等は大学全体。申請者数が見込みより下回ったことによる差額(30)	
		教員1人当り研究費等	400千円	400千円	図書購入費	19,670千円 19,672千円	12,947千円	0千円		図書購入費は絶版等に伴う図書差替えによる差額(30)
		共同研究費等	9,000千円 20,000千円	20,000千円	設備購入費	165,439千円 165,394千円	54,118千円 -54,063千円	0千円		
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	設備購入費はシミュレーター機材付属品等の追加により修正(30)		
	1,950千円	1,700千円	1,700千円	1,700千円	—千円	—千円				
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等						設備購入費はシミュレーター機材及び分鏡台ほか周辺機器等の追加により修正(元)	

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和元年5月1日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を赤字で見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(元)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。
 - ・ 校舎等建物の計画の変更(校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延)がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	大東文化大学								備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地	
	年	人	年次 人	人		倍	年度	年度		
<大学>										
文学部	4	630	—	2,340	—	1.05	—	昭和37	(1・2年次) 埼玉県東松山市 岩殿560 (3・4年次) 東京都板橋区高島平 1-9-1	
日本文学科	4	150	—	600	学士 (日本文学)	1.06	—	昭和37		定員変更 (△30)
中国文学科	4	70	—	310	学士 (中国文学)	1.05	平成29	昭和37		
英米文学科	4	130	—	520	学士 (英米文学)	1.06	—	昭和42		
教育学科	4	120	—	470	学士 (教育学)	1.03	平成29	昭和47		定員変更 (10)
書道学科	4	60	—	240	学士 (書道学)	1.03	—	平成12		
歴史文化学科	4	100	—	200	学士 (歴史文化学)	0.98	—	平成30		
経済学部	4	370	—	1,470	—	1.03	—	昭和37		
社会経済学科	4	205	—	815	学士 (経済学)	1.04	平成29	昭和37		定員変更 (5)
現代経済学科	4	165	—	655	学士 (経済学)	1.02	平成29	平成13		定員変更 (5)
外国語学部	4	360	—	1,470	—	1.06	—	昭和47		
中国語学科	4	70	—	310	学士 (中国語学)	1.06	平成29	昭和47		定員変更 (△30)
英語学科	4	230	—	920	学士 (英語学)	1.04	—	昭和47		
日本語学科	4	60	—	240	学士 (日本語学)	1.11	—	平成5		
法学部	4	375	—	1,500	—	1.04	—	昭和48		
法律学科	4	225	—	900	学士 (法学)	1.04	—	昭和48		
政治学科	4	150	—	600	学士 (政治学)	1.03	—	平成2		
国際関係学部	4	200	—	800	—	1.07	—	昭和61		
国際関係学科	4	100	—	400	学士 (国際関係)	1.08	—	昭和61	埼玉県東松山市 岩殿560	
国際文化学科	4	100	—	400	学士 (国際関係)	1.06	—	昭和61		
経営学部	4	365	—	1,445	—	1.04	—	平成12		
経営学科	4	365	—	1,445	学士 (経営学)	1.04	平成29	平成12	(1・2年次) 埼玉県東松山市 岩殿560 (3・4年次) 東京都板橋区高島平 1-9-1	定員変更 (15)
企業システム学科	4	—	—	—	学士 (経営学)	—	—	平成12		平成28年 学生募集停止
環境創造学部	4	—	—	—	—	—	—	平成13		
環境創造学科	4	—	—	—	学士 (環境創造学)	—	—	平成13	平成30年 学生募集停止	

大学の名称		大東文化大学							備考	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	
スポーツ・健康科学部	4	325	—	1,275	—	1.05	—	平成17	埼玉県東松山市 岩殿560	定員変更 (25)
スポーツ科学科	4	125	—	475	学士 (スポーツ科学)	1.12	平成29	平成17		
健康科学科	4	100	—	400	学士 (健康科学)	0.97	—	平成17		
看護学科	4	100	—	400	学士 (看護学)	1.00	—	平成30		
社会学部	4	200	—	400	—	0.99	—	平成30	(1・2年次) 埼玉県東松山市 岩殿560 (3・4年次) 東京都板橋区高島平 1-9-1	
社会学科	4	200	—	400	学士 (社会学)	0.99	—	平成30		
大学全体	4	2,825	—	10,700	—	1.04	—	—	—	
<大学院>										
文学研究科										
(博士前期課程)	2	23	—	55	—	0.50	—	昭和39	東京都板橋区高島平 1-9-1	定員変更 (△2) 定員変更 (△2) 定員変更 (△5) 定員変更 (△2) 定員変更 (△1)
日本文学専攻	2	3	—	8	修士 (日本文学)	0.36	令和元	昭和39		
中国学専攻	2	3	—	8	修士 (中国学)	0.16	令和元	昭和39		
英文学専攻	2	5	—	10	修士 (英文学)	0.70	—	昭和53		
書道学専攻	2	7	—	14	修士 (書道学)	0.99	—	平成15		
教育学専攻	2	5	—	15	修士 (教育学)	0.15	令和元	平成20		
(博士後期課程)	3	8	—	30	—	0.25	—	昭和47		
日本文学専攻	3	3	—	13	博士 (日本文学)	0.13	令和元	昭和47		
中国学専攻	3	2	—	8	博士 (中国学)	0.00	令和元	昭和42		
書道学専攻	3	3	—	9	博士 (書道学)	0.66	—	平成17		
経済学研究科										
(博士前期課程)										
経済学専攻	2	5	—	15	修士 (経済学) (公共政策学)	0.20	令和元	昭和47	定員変更 (△5)	
(博士後期課程)										
経済学専攻	3	3	—	13	博士 (経済学)	0.00	令和元	昭和53	定員変更 (△2)	
法学研究科										
(博士前期課程)	4	9	—	26	—	0.00	—	昭和52	定員変更 (△5) 定員変更 (△3)	
法律学専攻	2	5	—	15	修士 (法学)	0.00	令和元	昭和52		
政治学専攻	2	4	—	11	修士 (政治学) (公共政策学)	0.00	令和元	平成6		

大学の名称	大東文化大学									備考	
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所在地		
(博士後期課程)	6	4	—	22	—	0.00	—	平成3	埼玉県東松山市 岩殿560	定員変更 (△3) 定員変更 (△2)	
法学専攻	3	2	—	12	博士 (法学)	0.00	令和元	平成3			
政治学専攻	3	2	—	10	博士 (政治学)	0.00	令和元	平成8			
外国語学研究科											
(博士前期課程)	6	15	—	35	—	0.49	—	平成11			
中国言語文化学専攻	2	5	—	10	修士 (中国言語 文化学)	0.80	—	平成11			
英語学専攻	2	5	—	10	修士 (英語学)	0.50	—	平成11			
日本語文化学専攻	2	5	—	15	修士 (日本語 文化学)	0.30	令和元	平成11		定員変更 (△5)	
(博士後期課程)	9	8	—	26	—	0.60	—	平成17			
中国言語文化学専攻	3	3	—	9	博士 (中国言語 文化学)	0.77	—	平成23			
英語学専攻	3	3	—	9	博士 (英語学)	0.77	—	平成17			
日本語文化学専攻	3	2	—	8	博士 (日本語 文化学)	0.22	令和元	平成19		定員変更 (△1)	
アジア地域研究科											
(博士前期課程)											
アジア地域研究専攻	2	7	—	19	修士 (アジア 地域研究)	0.37	令和元	平成11		定員変更 (△5)	
(博士後期課程)											
アジア地域研究専攻	3	2	—	10	博士 (アジア 地域研究)	0.16	令和元	平成13		定員変更 (△2)	
経営学研究科											
(博士前期課程)											
経営学専攻	2	10	—	25	修士 (経営学)	0.33	令和元	平成15	定員変更 (△5)		
(博士後期課程)											
経営学専攻	3	3	—	13	博士 (経営学)	0.13	令和元	平成15	定員変更 (△2)		
スポーツ・健康科学 研究科											
スポーツ・健康科学 専攻(修士課程)	2	10	—	20	修士 (スポーツ 健康科学)	1.05	—	平成21	埼玉県東松山市 岩殿560		
法務研究科	3	—	—	—	—	—	—	平成16	東京都板橋区高島平 1-9-1	平成27年 学生募集停止	
法務専攻 (専門職学位課程)	3	—	—	—	法務博士 (専門職)	—	—	平成16			
大学院全体	—	107	—	266	—	0.38	—	—	—		

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校種ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
・学部/学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
・「平均入学定員超過率」の考え方は「大学設置等に係る提出書類の作成の手引き(平成31年度改訂版)」と同じです。
・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<スポーツ・健康科学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時】			【平成30年度】			【令和元年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
専	教授	杉森 裕樹 <平成30年4月> 博士(医学) 基礎ゼミナール 疾病・治療学Ⅲ(慢性期・総論/全身疾患) 公衆衛生学 チーム医療論 ※ 地域健康支援論 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※	専	教授	杉森 裕樹 <平成30年4月> 博士(医学) 基礎ゼミナール 疾病・治療学Ⅲ(慢性期・総論/全身疾患) 公衆衛生学 チーム医療論 ※ 地域健康支援論 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※	専	教授	杉森 裕樹 <平成30年4月> 博士(医学) 基礎ゼミナール 疾病・治療学Ⅲ(慢性期・総論/全身疾患) 公衆衛生学 チーム医療論 ※ 地域健康支援論 地域包括ケア概論 ※ 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 疾病・治療学Ⅱ(急性期・臓器別疾患) 疾病・治療学Ⅴ(小児・性と生殖医療) 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専	教授	豊嶋 三枝子 <平成30年4月> 修士(教育学) ※ 基礎ゼミナール 基礎看護学概論 看護方法論 ※ 看護理論 看護倫理 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 看護管理学概論 医療安全論	専	教授	豊嶋 三枝子 <平成30年4月> 修士(教育学) ※ 基礎ゼミナール 基礎看護学概論 看護方法論 ※ 看護理論 看護倫理 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 看護管理学概論 医療安全論	専	教授	豊嶋 三枝子 <平成30年4月> 修士(教育学) ※ 基礎ゼミナール 基礎看護学概論 看護方法論 ※ 看護理論 看護倫理 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ 看護管理学概論 医療安全論
専	教授	村松 由紀 <平成30年4月> 修士(保健医療学) ※ 基礎ゼミナール 共通スキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 ※ 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ	専	教授	村松 由紀 <平成30年4月> 修士(保健医療学) ※ 基礎ゼミナール 共通スキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 ※ 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ	専	教授	村松 由紀 <平成30年4月> 修士(保健医療学) ※ 基礎ゼミナール 共通スキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 ※ 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	教授	糸井 裕子 <平成30年4月> 博士(医学) 基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 統合実習 緩和ケア論 ※ がん看護 ※ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	糸井 裕子 <平成30年4月> 博士(医学) 基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 統合実習 緩和ケア論 ※ がん看護 ※ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ	専	教授	糸井 裕子 <平成30年4月> 博士(医学) 基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学概論 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 統合実習 緩和ケア論 ※ がん看護 ※ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	水野(今井)千奈津 <平成32年4月> 博士(工学)
		基礎ゼミナール コミュニケーション ※ 看護コミュニケーション シオン論 ※ 母性看護学概論 母性看護学方法論 ※ 母性看護学演習 リプロダクティブヘル ルス看護学 ※ 母性看護学実習 統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
兼任	講師	水野(今井)千奈津 <平成31年4月> 博士(工学)
		看護コミュニケーション シオン論 ※ 母性看護学概論 母性看護学方法論 ※ リプロダクティブヘル ルス看護学 ※
専任	教授	森田 恵子 <平成31年4月> 修士(心身健康科 学)
		基礎ゼミナール チーム医療論 ※ 老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ (医療支援看護) 老年看護学方法論Ⅱ (生活支援看護) ※ 老年看護学演習 リプロダクティブヘル ルス看護学 ※ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専任	教授	樺澤 一之 <平成30年4月> 医学博士
		基礎ゼミナール 情報処理 保健医療統計学 医療情報学 看護研究Ⅰ
専任	准教授	王 麗華 <平成30年4月> 博士(医学)
		基礎ゼミナール コミュニケーション ※ 看護コミュニケーション シオン論 ※ 地域看護学概論 地域健康支援論 在宅看護学概論 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 東洋文化と看護 看護研究Ⅱ 国際看護学

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	水野(今井)千奈津 <平成30年4月> 博士(工学)
		基礎ゼミナール コミュニケーション ※ 看護コミュニケーション シオン論 ※ 母性看護学概論 母性看護学方法論 ※ 母性看護学演習 リプロダクティブヘル ルス看護学 ※ 母性看護学実習 統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専任	教授	森田 恵子 <平成31年4月> 修士(心身健康科 学)
		基礎ゼミナール チーム医療論 ※ 老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ (医療支援看護) 老年看護学方法論Ⅱ (生活支援看護) ※ 老年看護学演習 リプロダクティブヘル ルス看護学 ※ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専任	教授	樺澤 一之 <平成30年4月> 医学博士
		基礎ゼミナール 情報処理 保健医療統計学 医療情報学 看護研究Ⅰ
専任	准教授	王 麗華 <平成30年4月> 博士(医学)
		基礎ゼミナール コミュニケーション ※ 看護コミュニケーション シオン論 ※ 地域看護学概論 地域健康支援論 在宅看護学概論 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 東洋文化と看護 看護研究Ⅱ 国際看護学

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専任	教授	水野(今井)千奈津 <平成30年4月> 博士(工学)
		基礎ゼミナール コミュニケーション ※ 看護コミュニケーション シオン論 ※ 母性看護学概論 母性看護学方法論 ※ 母性看護学演習 リプロダクティブヘル ルス看護学 ※ 母性看護学実習 統合実習 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専任	教授	森田 恵子 <平成31年4月> 修士(心身健康科 学)
		基礎ゼミナール チーム医療論 ※ 老年看護学概論 老年看護学方法論Ⅰ (医療支援看護) 老年看護学方法論Ⅱ (生活支援看護) ※ 老年看護学演習 リプロダクティブヘル ルス看護学 ※ 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 看護研究Ⅰ 看護研究Ⅱ
専任	教授	樺澤 一之 <平成30年4月> 医学博士
		基礎ゼミナール 情報処理 保健医療統計学 医療情報学 看護研究Ⅰ
専任	准教授	王 麗華 <平成30年4月> 博士(医学)
		基礎ゼミナール コミュニケーション ※ 看護コミュニケーション シオン論 ※ 地域看護学概論 地域健康支援論 在宅看護学概論 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 東洋文化と看護 看護研究Ⅱ 国際看護学

【認可時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等			<就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	長田 泉 <平成31年4月> 修士(教育学) ※	専	准教授	長田 泉 <平成31年4月> 修士(教育学) ※	専	准教授	長田 泉 <平成31年4月> 修士(教育学) ※
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ チーム医療論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 小児看護学概論 小児看護学方法論 小児看護学演習 リプロダクティブヘルス看護学 ※ 地域包括ケア演習 小児看護学実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 緩和ケア論 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 家族看護学 ※			基礎ゼミナール コモンスキル ※ チーム医療論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 小児看護学概論 小児看護学方法論 小児看護学演習 リプロダクティブヘルス看護学 ※ 地域包括ケア演習 小児看護学実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 緩和ケア論 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 家族看護学 ※			基礎ゼミナール コモンスキル ※ チーム医療論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 小児看護学概論 小児看護学方法論 小児看護学演習 リプロダクティブヘルス看護学 ※ 地域包括ケア演習 小児看護学実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 緩和ケア論 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 家族看護学 ※
		須佐 公子 <平成30年4月> 修士(保健医療学)			須佐 公子 <平成30年4月> 修士(保健医療学)			須佐 公子 <平成30年4月> 修士(保健医療学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 老年看護学方法論Ⅰ (医療支援看護) 老年看護学方法論Ⅱ (生活支援看護) ※ 老年看護学演習 地域包括ケア演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 老年看護学方法論Ⅰ (医療支援看護) 老年看護学方法論Ⅱ (生活支援看護) ※ 老年看護学演習 地域包括ケア演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 看護方法論			基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 老年看護学方法論Ⅰ (医療支援看護) 老年看護学方法論Ⅱ (生活支援看護) ※ 老年看護学演習 地域包括ケア演習 老年看護学実習Ⅰ 老年看護学実習Ⅱ 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 基礎看護学実習Ⅰ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 看護方法論
専	准教授	草刈 由美子 <平成30年4月> 修士(保健学)	専	准教授	草刈 由美子 <平成30年4月> 修士(保健学)	専	准教授	草刈 由美子 <平成30年4月> 修士(保健学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 看護研究Ⅱ 家族看護学 ※			基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 看護研究Ⅱ 家族看護学 ※			基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 統合実習 看護研究Ⅱ 家族看護学 ※
		北田 志郎 <平成30年4月> 博士(医学)			北田 志郎 <平成30年4月> 博士(医学)			北田 志郎 <平成30年4月> 博士(医学)
		基礎ゼミナール 疾病・治療Ⅳ(終末期・緩和医療) 疾病・治療Ⅵ(精神医療) 病態論 東洋医学概論(漢方) 精神看護学概論 ※ 精神看護学方法論 緩和ケア論 ※ 東洋文化と看護			基礎ゼミナール 疾病・治療Ⅳ(終末期・緩和医療) 疾病・治療Ⅵ(精神医療) 病態論 東洋医学概論(漢方) 精神看護学概論 ※ 精神看護学方法論 緩和ケア論 ※ 東洋文化と看護			基礎ゼミナール(終末期・緩和医療) 疾病・治療Ⅵ(精神医療) 病態論 東洋医学概論(漢方) 精神看護学概論 ※ 精神看護学方法論 緩和ケア論 ※ 東洋文化と看護 疾病・治療Ⅴ(小児・性と生殖医療)

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> <保有学位等>
専任	准教授	本山(堀内)仁美 <平成30年4月> 修士(心理学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ(急性期) 統合実習 クリティカルケア論 ※ がん看護 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専任	講師	甲賀 ひとみ <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ チーム医療論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 精神看護学概論 ※ 精神看護学方法論 精神看護学演習 精神看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専任	講師	渡部 富栄 <平成30年4月> 修士(経済学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ 医療英語 英語ゼミナール 看護コミュニケーション論 ※ 国際看護学
専任	講師	鈴木 明美 <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 統合実習 緩和ケア論 ※ がん看護 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専任	講師	伊藤 直子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 地域健康支援論 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 地域包括ケア方法論 ※ 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 統合実習 看護研究Ⅱ

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> <保有学位等>
専任	准教授	本山(堀内)仁美 <平成30年4月> 修士(心理学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ(急性期) 統合実習 クリティカルケア論 ※ がん看護 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専任	講師	村田(甲賀)ひとみ <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ チーム医療論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 精神看護学概論 ※ 精神看護学方法論 精神看護学演習 地域包括ケア実習 精神看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専任	講師	渡部 富栄 <平成30年4月> 修士(経済学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ 医療英語 英語ゼミナール 看護コミュニケーション論 ※ 国際看護学
専任	講師	鈴木 明美 <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 統合実習 緩和ケア論 ※ がん看護 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専任	講師	伊藤 直子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 地域健康支援論 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 地域包括ケア方法論 ※ 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 統合実習 看護研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名
		<就任(予定)年月> <保有学位等>
専任	准教授	本山(堀内)仁美 <平成30年4月> 修士(心理学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅰ(急性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ(急性期) 統合実習 クリティカルケア論 ※ がん看護 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専任	講師	村田(甲賀)ひとみ <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ チーム医療論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 精神看護学概論 ※ 精神看護学方法論 精神看護学演習 地域包括ケア実習 精神看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専任	講師	渡部 富栄 <平成30年4月> 修士(経済学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ 医療英語 英語ゼミナール 看護コミュニケーション論 ※ 国際看護学
専任	講師	鈴木 明美 <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅱ(慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅱ(慢性期) 統合実習 緩和ケア論 ※ がん看護 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専任	講師	伊藤 直子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール 共通スキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 地域健康支援論 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 地域包括ケア方法論 ※ 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 統合実習 看護研究Ⅱ

【認可時】		【平成30年度】		【令和元年度】			
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等	
		担当授業科目名		担当授業科目名		担当授業科目名	
専	講師	荒井 洋子 <平成31年4月> 修士(看護学)	荒井 洋子 <平成31年4月> 修士(看護学)	荒井 洋子 <平成31年4月> 修士(看護学)	専	講師	荒井 洋子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 クリティカルケア論 ※ 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	講師	奥平 寛奈 <平成30年4月> 修士(保健医療学)	奥平 寛奈 <平成30年4月> 修士(保健医療学)	奥平 寛奈 <平成30年4月> 修士(保健医療学)	専	講師	奥平 寛奈 <平成30年4月> 修士(保健医療学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	講師	川島 雅子 <平成31年4月> 修士(看護学)	川島 雅子 <平成31年4月> 修士(看護学)	川島 雅子 <平成31年4月> 修士(看護学)	専	講師	川島 雅子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 小児看護学方法論 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 小児看護学方法論 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 小児看護学方法論 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 小児看護学方法論 小児看護学演習 小児看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専	助教	鈴木 秀樹 <平成30年4月> 修士(看護学)					
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ					
専	助教	野崎 百合子 <平成31年4月> 修士(看護学)	野崎 百合子 <平成31年4月> 修士(看護学)	野崎 百合子 <平成31年4月> 修士(看護学)	専	助教	野崎 百合子 <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ	基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ			基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 母性看護学方法論 母性看護学演習 母性看護学実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		山口 浩美 <平成30年4月> 修士(健康科学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅱ (慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ(急性期) 老年看護学実習Ⅰ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習
専 助教		黒田 美香 <平成30年4月> 修士(学術)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専 助教		滝沢 隆 <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅰ (急性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ(急性期) 老年看護学実習Ⅰ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専 助教		野崎 裕之 <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学方法論 精神看護学演習 精神看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		山口 浩美 <平成30年4月> 修士(健康科学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅱ (慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ(急性期) 老年看護学実習Ⅰ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習
専 助教		黒田 美香 <平成30年4月> 修士(学術)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専 助教		滝沢 隆 <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅰ (急性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ(急性期) 老年看護学実習Ⅰ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専 助教		野崎 裕之 <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学方法論 精神看護学演習 精神看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助教		山口 浩美 <平成30年4月> 修士(健康科学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅱ (慢性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ(急性期) 老年看護学実習Ⅰ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習
専 助教		黒田 美香 <平成30年4月> 修士(学術)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 生活支援技術論Ⅰ 生活支援技術論Ⅱ 医療支援技術論Ⅰ 医療支援技術論Ⅱ 看護方法論 ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅰ 基礎看護学実習Ⅱ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
専 助教		滝沢 隆 <平成31年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 成人看護学方法論Ⅰ (急性期) ※ 成人看護学演習 成人看護学実習Ⅰ(急性期) 老年看護学実習Ⅰ 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ 災害看護学
専 助教		野崎 裕之 <平成30年4月> 修士(看護学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅱ 精神看護学方法論 精神看護学演習 精神看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ

【認可時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助 教	専 助 教	高安 令子 <平成30年4月> 修士(健康科学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
		太田 眞 <平成30年4月> 医学博士
		救急救命Ⅰ 救急救命Ⅱ スポーツ医学概論
		中島 一敏 <平成30年4月> 博士(医学)
		微生物学
		大城 聡 <平成30年4月> 医学博士
		生化学 薬理学
		鈴木 明 <平成31年4月> 医学博士
		健康科学実践 ※
兼任 教授	兼任 教授	瑛子 友男 <平成31年4月> 医学博士
		健康科学実践 ※
兼任 教授	兼任 教授	只隈 伸也 <平成30年4月> 栄養学修士
		総合体育A 総合体育B 健康科学実践 ※ 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任 教授	兼任 教授	田中 博史 <平成30年4月> 修士(体育学)
		総合体育A 総合体育B 野外実習A 野外実習B 健康科学実践 ※
兼任 教授	兼任 教授	宮瀬 交二 <平成30年4月> 博士(学術)
		郷土論(埼玉学) 考古学A 考古学B
兼任 教授	兼任 教授	北澤 恒人 <平成30年4月> 文学修士※
		哲学A 哲学B 倫理学A 倫理学B 社会学A 社会学B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助 教	専 助 教	高安 令子 <平成30年4月> 修士(健康科学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
		太田 眞 <平成30年4月> 医学博士
		救急救命Ⅰ 救急救命Ⅱ スポーツ医学概論
		中島 一敏 <平成30年4月> 博士(医学)
		微生物学
		大城 聡 <平成30年4月> 医学博士
		薬理学
		鈴木 明 <平成31年4月> 医学博士
		健康科学実践 ※
兼任 教授	兼任 教授	瑛子 友男 <平成31年4月> 医学博士
		健康科学実践 ※
兼任 教授	兼任 教授	只隈 伸也 <平成30年4月> 栄養学修士
		総合体育A 総合体育B 健康科学実践 ※ 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任 教授	兼任 教授	田中 博史 <平成30年4月> 博士(医学)
		総合体育A 総合体育B 野外実習A 野外実習B 健康科学実践 ※
兼任 教授	兼任 教授	宮瀬 交二 <平成30年4月> 博士(学術)
		郷土論(埼玉学)
兼任 教授	兼任 教授	北澤 恒人 <平成30年4月> 文学修士※
		倫理学A 倫理学B 社会学A 社会学B

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
専 助 教	専 助 教	高安 令子 <平成30年4月> 修士(健康科学)
		基礎ゼミナール コモンスキル ※ 看護コミュニケーション論 ※ 基礎看護学実習Ⅱ 在宅看護学方法論 ※ 在宅看護学演習 老年看護学実習Ⅰ 在宅看護学実習 地域包括ケア実習 統合実習 看護実践能力強化演習 看護研究Ⅱ
		太田 眞 <平成30年4月> 医学博士
		救急救命Ⅰ 救急救命Ⅱ スポーツ医学概論
		中島 一敏 <平成30年4月> 博士(医学)
		微生物学
		大城 聡 <令和2年4月> 医学博士
		薬理学
		鈴木 明 <平成31年4月> 医学博士
		健康科学実践 ※
兼任 教授	兼任 教授	瑛子 友男 <平成31年4月> 医学博士
		健康科学実践 ※
兼任 教授	兼任 教授	只隈 伸也 <平成30年4月> 栄養学修士
		総合体育A 総合体育B 健康科学実践 ※ 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任 教授	兼任 教授	田中 博史 <平成30年4月> 博士(医学)
		総合体育A 総合体育B 野外実習A 野外実習B 健康科学実践 ※
兼任 教授	兼任 教授	宮瀬 交二 <平成30年4月> 博士(学術)
		郷土論(埼玉学)
兼任 教授	兼任 教授	北澤 恒人 <平成30年4月> 文学修士※
		哲学A 哲学B 倫理学A 倫理学B

【認可時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
兼担	教授	浦田 健二 ＜平成30年4月＞ 理学博士
		現代科学A 現代科学B 自然科学A 自然科学B
兼担	教授	大杉 由香 ＜平成30年4月＞ 博士(経済学)
		現代社会の諸問題A 現代社会の諸問題B
兼担	教授	大月 実 ＜平成30年4月＞ 博士(言語学)
		言語学A 言語学B
兼担	教授	岡崎 邦彦 ＜平成30年4月＞ 経済学修士
		歴史学A 歴史学B
兼担	教授	加瀬 幸喜 ＜平成30年4月＞ 法学修士
		法学A 法学B
兼担	教授	上村 圭介 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)
		言語学A 言語学B
兼担	教授	川本 竜史 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)
		総合体育A 総合体育B
兼担	教授	高尾 謙史 ＜平成30年4月＞ 文学修士
		文学A 文学B
兼担	教授	竹島 毅 ＜平成30年4月＞ 文学修士
		中国語A 中国語B
兼担	教授	武田 知己 ＜平成30年4月＞ 博士(政治学)
		政治学A 政治学B
兼担	教授	田中 達也 ＜平成30年4月＞ 博士(文学)
		地理学A 地理学B 地域・国家・民族の 考察A 地域・国家・民族の 考察B
兼担	教授	千葉 一幹 ＜平成30年4月＞ 学術修士
		文学A 文学B 異文化・世界にふれ るA 異文化・世界にふれ るB

【平成30年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
兼担	教授	浦田 健二 ＜平成30年4月＞ 理学博士
		現代科学A 現代科学B 自然科学A 自然科学B
兼担	教授	大杉 由香 ＜平成30年4月＞ 博士(経済学)
		現代社会の諸問題A 現代社会の諸問題B
兼担	教授	大月 実 ＜平成30年4月＞ 博士(言語学)
		言語学A 言語学B
兼担	教授	岡崎 邦彦 ＜平成30年4月＞ 経済学修士
		歴史学A 歴史学B
兼担	教授	加瀬 幸喜 ＜平成30年4月＞ 法学修士
		法学A 法学B
兼担	教授	上村 圭介 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)
		言語学A 言語学B
兼担	教授	川本 竜史 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)
		総合体育A 総合体育B
兼担	教授	高尾 謙史 ＜平成30年4月＞ 文学修士
		文学A 文学B
兼担	教授	竹島 毅 ＜平成30年4月＞ 文学修士
		中国語A 中国語B
兼担	教授	武田 知己 ＜平成30年4月＞ 博士(政治学)
		政治学A 政治学B
兼担	教授	田中 達也 ＜平成30年4月＞ 博士(文学)
		地域・国家・民族の 考察A 地域・国家・民族の 考察B
兼担	教授	千葉 一幹 ＜平成30年4月＞ 学術修士
		文学A 文学B 異文化・世界にふれ るA 異文化・世界にふれ るB

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		＜就任(予定)年月＞ 保有学位等
兼担	教授	浦田 健二 ＜平成30年4月＞ 理学博士
		現代科学A 現代科学B 自然科学A 自然科学B
兼担	教授	大杉 由香 ＜平成30年4月＞ 博士(経済学)
		現代社会の諸問題A 現代社会の諸問題B
兼担	教授	大月 実 ＜平成30年4月＞ 博士(言語学)
		言語学A 言語学B
兼担	教授	岡崎 邦彦 ＜平成30年4月＞ 経済学修士
		歴史学A 歴史学B
兼担	教授	上村 圭介 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)
		言語学A 言語学B
兼担	教授	川本 竜史 ＜平成30年4月＞ 博士(学術)
		総合体育A 総合体育B
兼担	教授	高尾 謙史 ＜平成30年4月＞ 文学修士
		文学A 文学B
兼担	教授	竹島 毅 ＜平成30年4月＞ 文学修士
		中国語A 中国語B
兼担	教授	武田 知己 ＜平成30年4月＞ 博士(政治学)
		政治学A 政治学B
兼担	教授	田中 達也 ＜平成30年4月＞ 博士(文学)
		地域・国家・民族の 考察A 地域・国家・民族の 考察B
兼担	教授	千葉 一幹 ＜平成30年4月＞ 学術修士
		文学A 文学B

【認可時】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	寺田 浩司 〈平成30年4月〉 農学修士
		生物学A 生物学B 現代科学A 現代科学B 全学共通特殊講義A 全学共通特殊講義B
兼担	教授	内藤 二郎 〈平成30年4月〉 博士(経済学)
		現代社会の諸問題A 現代社会の諸問題B
兼担	教授	中井 睦美 〈平成30年4月〉 博士(理学)
		地学A 地学B 全学共通特殊講義A 全学共通特殊講義B
兼担	教授	中垣 恒太郎 〈平成30年4月〉 修士(文学)
		芸術学A 芸術学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB 自己・人間をみつめるA 自己・人間をみつめるB
兼担	教授	中澤 紀子 〈平成30年4月〉 教育学修士
		自己・人間をみつめるA 自己・人間をみつめるB
兼担	教授	中野 紀和 〈平成30年4月〉 博士(社会学)
		文化人類学A 文化人類学B
兼担	教授	中村 正雄 〈平成30年4月〉 教育学修士
		健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼担	教授	水谷 正大 〈平成30年4月〉 理学博士
		情報科学A 情報科学B
兼担	教授	宮城 修 〈平成30年4月〉 博士(体育学)
		総合体育A 総合体育B
兼担	教授	武藤 慎一 〈平成30年4月〉 博士(文学)
		宗教学A 宗教学B

【平成30年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	寺田 浩司 〈平成30年4月〉 農学修士
		生物学A 生物学B 現代科学A 現代科学B 全学共通特殊講義A 全学共通特殊講義B
兼担	教授	中井 睦美 〈平成30年4月〉 博士(理学)
		地学A 地学B 全学共通特殊講義A 全学共通特殊講義B
兼担	教授	中澤 紀子 〈平成30年4月〉 教育学修士
		自己・人間をみつめるA 自己・人間をみつめるB
兼担	教授	中野 紀和 〈平成30年4月〉 博士(社会学)
		文化人類学A 文化人類学B
兼担	教授	中村 正雄 〈平成30年4月〉 教育学修士
		健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼担	教授	水谷 正大 〈平成30年4月〉 理学博士
		情報科学A 情報科学B
兼担	教授	宮城 修 〈平成30年4月〉 博士(体育学)
		総合体育A 総合体育B
兼担	教授	武藤 慎一 〈平成30年4月〉 博士(文学)
		宗教学A 宗教学B

【令和元年度】

専任・兼担・兼任の別	職名	氏名
		〈就任(予定)年月〉 保有学位等
		担当授業科目名
兼担	教授	寺田 浩司 〈平成30年4月〉 農学修士
		生物学A 生物学B 現代科学A 現代科学B
兼担	教授	中井 睦美 〈平成30年4月〉 博士(理学)
		地学A 地学B
兼担	教授	中澤 紀子 〈平成30年4月〉 教育学修士
		自己・人間をみつめるA 自己・人間をみつめるB
兼担	教授	中野 紀和 〈平成30年4月〉 博士(社会学)
		文化人類学A 文化人類学B
兼担	教授	中村 正雄 〈平成30年4月〉 教育学修士
		健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼担	教授	水谷 正大 〈平成30年4月〉 理学博士
		情報科学A 情報科学B
兼担	教授	宮城 修 〈平成30年4月〉 博士(体育学)
		総合体育A 総合体育B
兼担	教授	武藤 慎一 〈平成30年4月〉 博士(文学)
		宗教学A 宗教学B

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	山下 東子 <平成30年4月> 博士(学術)
		経済学A 経済学B
兼任	教授	山根 雄一郎 <平成30年4月> 博士(文学)
		哲学A 哲学B 倫理学A 倫理学B
兼任	准教授	蕪木 智子 <平成30年4月> 博士(学術)
		人間と栄養 チーム医療論 ※ 現代科学A 現代科学B 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	准教授	築瀬 澄乃 <平成31年4月> 医学博士
		臨床検査学概論
兼任	准教授	宮本 正秀 <平成30年4月> 修士(文学)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV
兼任	准教授	池本 今日子 <平成30年4月> 博士(文学)
		文化史A 文化史B
兼任	准教授	金澤 妙子 <平成30年4月> 家政学修士
		女性・子ども・老人 への視点A 女性・子ども・老人 への視点B
兼任	准教授	神谷 諭一 <平成30年4月> 博士(数理学)
		数学A 数学B 自己・人間を見つめる A 自己・人間を見つめる B
兼任	准教授	工藤 保子 <平成31年4月> 体育学修士
		体育実技A 体育実技B

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	山下 東子 <平成30年4月> 博士(学術)
		経済学A 経済学B
兼任	教授	山根 雄一郎 <平成30年4月> 博士(文学)
		哲学A 哲学B 倫理学A 倫理学B
兼任	准教授	蕪木 智子 <平成30年4月> 博士(学術)
		チーム医療論 ※ 現代科学A 現代科学B 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	准教授	築瀬 澄乃 <平成31年4月> 医学博士
		臨床検査学概論
兼任	准教授	宮本 正秀 <平成30年4月> 修士(文学)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV
兼任	准教授	池本 今日子 <平成30年4月> 博士(文学)
		文化史A 文化史B
兼任	准教授	金澤 妙子 <平成30年4月> 家政学修士
		女性・子ども・老人 への視点A 女性・子ども・老人 への視点B
兼任	准教授	勝俣 康之 <平成30年4月> 修士(スポーツ 健康科学)
		体育実技A 体育実技B
兼任	准教授	神谷 諭一 <平成30年4月> 博士(数理学)
		数学A 数学B 自己・人間を見つめる A 自己・人間を見つめる B

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	教授	山下 東子 <平成30年4月> 博士(学術)
		経済学A 経済学B
兼任	教授	山根 雄一郎 <平成30年4月> 博士(文学)
		哲学A 哲学B 倫理学A 倫理学B
兼任	准教授	厚 香苗 <令和元年4月> 博士(文学)
		民俗学A 民俗学B
兼任	准教授	蕪木 智子 <平成30年4月> 博士(学術)
		チーム医療論 ※ 現代科学A 現代科学B 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	准教授	築瀬 澄乃 <平成31年4月> 医学博士
		臨床検査学概論
兼任	教授	宮本 正秀 <平成30年4月> 修士(文学)
		英語コミュニケーション I 英語コミュニケーション II 英語コミュニケーション III 英語コミュニケーション IV
兼任	准教授	池本 今日子 <平成30年4月> 博士(文学)
		文化史A 文化史B
兼任	准教授	金澤 妙子 <平成30年4月> 家政学修士
		女性・子ども・老人 への視点A 女性・子ども・老人 への視点B
兼任	准教授	勝俣 康之 <平成30年4月> 修士(スポーツ 健康科学)
		体育実技A 体育実技B 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	准教授	神谷 諭一 <平成30年4月> 博士(数理学)
		数学A 数学B 自己・人間を見つめる A 自己・人間を見つめる B

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	小林 春樹 <平成30年4月> 文学修士 歴史学A 歴史学B
兼任	准教授	白井 春人 <平成30年4月> 文学修士 芸術学A 芸術学B
兼任	准教授	杉田 明宏 <平成30年4月> 教育学修士 人権・民主主義・平和を考えるA 人権・民主主義・平和を考えるB
兼任	准教授	高屋 康彦 <平成30年4月> 博士(理学) 地理学A 地理学B
兼任	准教授	萩原 基裕 <平成30年4月> 博士(法学) 法学A 法学B
兼任	准教授	橋本 みのり <平成30年4月> 博士(学術) 生物学A 生物学B 生態学A 生態学B
兼任	准教授	本間 俊行 <平成30年4月> 博士(医学) 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	准教授	松崎 友世 <平成30年4月> 博士(心理学) 心理学A 心理学B

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	小林 春樹 <平成30年4月> 文学修士 歴史学A 歴史学B
兼任	准教授	白井 春人 <平成30年4月> 文学修士 芸術学A 芸術学B
兼任	教授	杉田 明宏 <平成30年4月> 教育学修士 人権・民主主義・平和を考えるA 人権・民主主義・平和を考えるB
兼任	准教授	高屋 康彦 <平成30年4月> 博士(理学) 地理学A 地理学B
兼任	准教授	津曲 真一 <平成30年4月> 文学博士 宗教学A 宗教学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB 自己・人間を見つめるA 自己・人間を見つめるB
兼任	准教授	野瀬 元子 <平成30年4月> 博士 (国際地域学) 現代社会の諸問題A 現代社会の諸問題B
兼任	准教授	萩原 基裕 <平成30年4月> 博士(法学) 法学A 法学B
兼任	准教授	橋本 みのり <平成30年4月> 博士(学術) 生物学A 生物学B 生態学A 生態学B
兼任	准教授	本間 俊行 <平成30年4月> 博士(医学) 健康スポーツ科学A 健康スポーツ科学B
兼任	教授	松崎 友世 <平成30年4月> 博士(心理学) 心理学A 心理学B

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	小林 春樹 <平成30年4月> 文学修士 歴史学A 歴史学B
兼任	准教授	白井 春人 <平成30年4月> 文学修士 芸術学A 芸術学B
兼任	教授	杉田 明宏 <平成30年4月> 教育学修士 人権・民主主義・平和を考えるA 人権・民主主義・平和を考えるB
兼任	准教授	高屋 康彦 <平成30年4月> 博士(理学) 地理学A 地理学B
兼任	准教授	津曲 真一 <平成30年4月> 文学博士 宗教学A 宗教学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB 自己・人間を見つめるA 自己・人間を見つめるB
兼任	准教授	土居 良一 <平成31年4月> 博士(学術) 現代社会の諸問題A 現代社会の諸問題B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB
兼任	准教授	萩原 基裕 <平成30年4月> 博士(法学) 法学A 法学B
兼任	准教授	橋本 みのり <平成30年4月> 博士(学術) 生物学A 生物学B 生態学A 生態学B
兼任	教授	松崎 友世 <平成30年4月> 博士(心理学) 心理学A 心理学B

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	村井 信幸 <平成30年4月> 文学修士※
		歴史学A 歴史学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB
兼任	准教授	吉永 良正 <平成30年4月> 理学士、文学士
		論理学A 論理学B
兼任	講師	鹿島 文博 <平成31年4月> 修士(スポーツ健康科学)
		健康科学実践 ※
兼任	講師	浅沼(川野) 薫奈 <平成30年4月> 修士(国際学)
		自己・人間を見つめるA 自己・人間を見つめるB
兼任	講師	香川 めい <平成30年4月> 修士(教育学)
		社会学A 社会学B 教育学A 教育学B
兼任	講師	木村 竜太 <平成30年4月> 博士(文化史学)
		異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB
兼任	講師	佐藤 真太郎 <平成30年4月> 修士(体育学)
		総合体育A 総合体育B
兼任	講師	高田 未里 <平成30年4月> 博士(文学)
		心理学A 心理学B
兼任	講師	福井(小川) 庸子 <平成30年4月> 博士(教育学)
		キャリアデザインA キャリアデザインB
兼任	講師	藤井 誠一郎 <平成30年4月> 博士(政策科学)
		政治学A 政治学B

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	村井 信幸 <平成30年4月> 文学修士※
		歴史学A 歴史学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB
兼任	准教授	吉永 良正 <平成30年4月> 理学士、文学士
		論理学A 論理学B
兼任	講師	鹿島 文博 <平成31年4月> 修士(スポーツ健康科学)
		健康科学実践 ※
兼任	講師	浅沼(川野) 薫奈 <平成30年4月> 修士(国際学)
		自己・人間を見つめるA 自己・人間を見つめるB
兼任	講師	香川 めい <平成30年4月> 修士(教育学)
		社会学A 社会学B 教育学A 教育学B
兼任	講師	木村 竜太 <平成30年4月> 博士(文化史学)
		文学A 文学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB
兼任	講師	佐藤 真太郎 <平成30年4月> 修士(体育学)
		総合体育A 総合体育B
兼任	准教授	高田 未里 <平成30年4月> 博士(文学)
		心理学A 心理学B
兼任	講師	福井(小川) 庸子 <平成30年4月> 博士(教育学)
		キャリアデザインA キャリアデザインB
兼任	准教授	藤井 誠一郎 <平成30年4月> 博士(政策科学)
		政治学A 政治学B

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	准教授	村井 信幸 <平成30年4月> 文学修士※
		歴史学A 歴史学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB
兼任	准教授	吉永 良正 <平成30年4月> 理学士、文学士
		論理学A 論理学B
兼任	准教授	鹿島 文博 <平成31年4月> 修士(スポーツ健康科学)
		健康科学実践 ※
兼任	講師	浅沼(川野) 薫奈 <平成30年4月> 修士(国際学)
		自己・人間を見つめるA 自己・人間を見つめるB
兼任	講師	香川 めい <平成30年4月> 修士(教育学)
		社会学A 社会学B 教育学A 教育学B
兼任	講師	木村 竜太 <平成30年4月> 博士(文化史学)
		文学A 文学B 異文化・世界にふれるA 異文化・世界にふれるB
兼任	准教授	佐藤 真太郎 <平成30年4月> 修士(体育学)
		総合体育A 総合体育B
兼任	講師	岡田 拓也 <平成31年4月> 博士(法学)
		政治学A 政治学B
兼任	講師	小野田 竜一 <平成31年4月> 博士(文学)
		心理学A 心理学B

【認可時】			【平成30年度】			【令和元年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等 担当授業科目名
						兼任	講師	島井 誠司 <平成31年4月> 法学士 全学共通特殊講義A 全学共通特殊講義B
						兼任	講師	田崎 郁子 <平成31年4月> 博士(地域研究) 文化人類学A 文化人類学B
兼任	講師	福島 道子 <平成30年4月> 博士(社会福祉学) 地域看護学概論 地域健康支援論 地域包括ケア概論 ※ 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 家族看護学 ※	兼任	講師	福島 道子 <平成31年4月> 博士(社会福祉学) 地域健康支援論 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 家族看護学 ※	兼任	講師	福島 道子 <令和2年4月> 博士(社会福祉学) 地域健康支援論 地域包括ケア方法論 ※ 地域包括ケア演習 家族看護学 ※
兼任	講師	手嶋 顕久 <平成31年4月> 経済学士 保健医療福祉制度論 社会福祉学	兼任	講師	手嶋 顕久 <平成31年4月> 経済学士 保健医療福祉制度論 社会福祉学	兼任	講師	手嶋 顕久 <平成31年4月> 経済学士 保健医療福祉制度論 社会福祉学
兼任	講師	柳本 茂久 <平成30年4月> 博士(医学) 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 疾病・治療Ⅱ(急性期・臓器別疾患) 疾病・治療Ⅴ(小児・性と生殖医療)	兼任	講師	柳本 茂久 <平成30年4月> 博士(医学) 疾病・治療Ⅱ(急性期・臓器別疾患) 疾病・治療Ⅴ(小児・性と生殖医療)			
兼任	講師	渋谷 寛子 <平成30年4月> 修士(臨床心理学) 人間関係論	兼任	講師	渋谷 寛子 <平成30年4月> 修士(臨床心理学) 人間関係論	兼任	講師	渋谷 寛子 <平成30年4月> 修士(臨床心理学) 人間関係論
兼任	講師	熊谷(金岡) 順子 <平成31年4月> MA(American Literature and Culture) (イギリス) ※ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ	兼任	講師	熊谷(金岡) 順子 <平成31年4月> MA(American Literature and Culture) (イギリス) ※ 英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ 英語コミュニケーションⅢ 英語コミュニケーションⅣ			
兼任	講師	遠田 諭 <平成31年4月> 修士(心理学) 臨床心理学概論 発達心理学	兼任	講師	遠田 諭 <平成31年4月> 修士(心理学) 臨床心理学概論 発達心理学	兼任	講師	遠田 諭 <平成31年4月> 修士(心理学) 臨床心理学概論 発達心理学
兼任	講師	金子 純一朗 <平成32年4月> 博士(保健医療学) 地域リハビリテーション看護概論	兼任	講師	金子 純一朗 <平成32年4月> 博士(保健医療学) 地域リハビリテーション看護概論	兼任	講師	金子 純一朗 <平成32年4月> 博士(保健医療学) 地域リハビリテーション看護概論
兼任	講師	成田 信義 <平成31年4月> 博士(医学) 疾病・治療Ⅰ(急性期・総論/運動・感覚器)	兼任	講師	成田 信義 <平成31年4月> 博士(医学) 人体の構造と機能Ⅰ 人体の構造と機能Ⅱ 疾病・治療Ⅰ(急性期・総論/運動・感覚器)	兼任	講師	成田 信義 <平成31年4月> 博士(医学) 疾病・治療Ⅰ(急性期・総論/運動・感覚器)

【認可時】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	亀澤 孝幸 <平成30年4月> 博士(書道学)
		芸術学A 芸術学B
兼任	講師	木川 裕 <平成30年4月> 法学修士、経済学修士
		情報科学A 情報科学B
兼任	講師	黒柳 修一 <平成30年4月> 教育学修士 ※
		教育学A 教育学B
兼任	講師	児島(鈴木) 由理 <平成30年4月> 修士(学術)※
		ドイツ語A ドイツ語B
兼任	講師	佐藤 亮輔 <平成31年4月> 修士(スポーツ健康科学)
		体育実技A 体育実技B
兼任	講師	高橋 明美 <平成30年4月> 文学博士※
		フランス語A フランス語B
兼任	講師	鄭 俊坤 <平成30年4月> 政治学博士
		コリア語A コリア語B
兼任	講師	得能 壽美 <平成30年4月> 文学修士
		地域・国家・民族の 考察A 地域・国家・民族の 考察B 女性・子ども・老人 への視点A 女性・子ども・老人 への視点B
兼任	講師	外山 英明 <平成31年4月> 修士(スポーツ科学)
		体育実技A 体育実技B

【平成30年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	亀澤 孝幸 <平成30年4月> 博士(書道学)
		芸術学A 芸術学B
兼任	講師	木川 裕 <平成30年4月> 法学修士、経済学修士
		情報科学A 情報科学B
兼任	講師	黒柳 修一 <平成30年4月> 教育学修士 ※
		教育学A 教育学B
兼任	講師	斎野 岳蔵 <平成30年4月> 理学修士
		地理学A 地理学B
兼任	講師	佐藤 亮輔 <平成31年4月> 修士(スポーツ健康科学)
		体育実技A 体育実技B
兼任	講師	佐山 一 <平成30年4月> 文学修士※
		フランス語A フランス語B
兼任	講師	田中 英司 <平成30年4月> 博士(文学)
		考古学A 考古学B
兼任	講師	鄭 俊坤 <平成30年4月> 政治学博士
		コリア語A コリア語B
兼任	講師	得能 壽美 <平成30年4月> 文学修士
		地域・国家・民族の 考察A 地域・国家・民族の 考察B 女性・子ども・老人 への視点A 女性・子ども・老人 への視点B
兼任	講師	外山 英明 <平成31年4月> 修士(スポーツ科学)
		体育実技A 体育実技B

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	亀澤 孝幸 <平成30年4月> 博士(書道学)
		芸術学A 芸術学B
兼任	講師	木川 裕 <平成30年4月> 法学修士、経済学修士
		情報科学A 情報科学B
兼任	講師	黒柳 修一 <平成30年4月> 教育学修士 ※
		教育学A 教育学B
兼任	講師	斎野 岳蔵 <平成30年4月> 理学修士
		地理学A 地理学B
兼任	講師	佐山 一 <平成30年4月> 文学修士※
		フランス語A フランス語B
兼任	講師	田中 英司 <平成30年4月> 博士(文学)
		考古学A 考古学B
兼任	講師	鄭 俊坤 <平成30年4月> 政治学博士
		コリア語A コリア語B
兼任	講師	得能 壽美 <平成30年4月> 文学修士
		地域・国家・民族の 考察A 地域・国家・民族の 考察B 女性・子ども・老人 への視点A 女性・子ども・老人 への視点B
兼任	講師	外山 英明 <平成31年4月> 修士(スポーツ科学)
		体育実技A 体育実技B

【認可時】

【平成30年度】

【令和元年度】

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	仁井田 典子 <平成30年4月> 博士(社会学)	兼任	講師	仁井田 典子 <平成30年4月> 博士(社会学)	兼任	講師	仁井田 典子 <平成30年4月> 博士(社会学)
		キャリアデザインA キャリアデザインB			キャリアデザインA キャリアデザインB			キャリアデザインA キャリアデザインB
兼任	講師	浜島 一成 <平成30年4月> 工学博士	兼任	講師	浜島 一成 <平成30年4月> 工学博士	兼任	講師	浜島 一成 <平成30年4月> 工学博士
		芸術学A 芸術学B			芸術学A 芸術学B			芸術学A 芸術学B
兼任	講師	松崎 かおり <平成30年4月> 修士(文学)※	兼任	講師	松崎 かおり <平成30年4月> 修士(文学)※	兼任	講師	
		民俗学A 民俗学B			民俗学A 民俗学B			
			兼任	講師	松村 健吾 <平成30年4月> 博士(社会学)		講師	
					哲学A 哲学B			
			兼任	講師	村瀬(佐藤) 民子 <平成30年4月> 修士(文学)※		講師	
					ドイツ語A ドイツ語B			
			兼任	講師	藤縄 玲子 <平成30年4月> 修士(薬科学)		講師	
					生化学			
			兼任	講師	石井 和美 <平成30年4月> 修士(家政学)		講師	石井 和美 <平成30年4月> 修士(家政学)
					人間と栄養	人間と栄養		
							兼任	吉澤 一巳 <平成31年4月> 博士(薬学)
						薬理学		
							兼任	佐藤 匡昭 <平成31年4月> 学士(理学)
						生化学		
							兼任	篠塚 勝正 <平成31年4月> 修士(英語学)
						英語コミュニケーションI 英語コミュニケーションII 英語コミュニケーションIII 英語コミュニケーションIV		
						青葉 幸洋 <平成31年4月> 修士(スポーツ健康科学)		
						体育実技A 体育実技B		
							兼任	植田 俊太郎 <平成31年4月> 修士(法学)
						法学A 法学B		
							兼任	瀧井 計史 (48) <平成31年4月> 修士(社会学)
						社会学A 社会学B		

【認可時】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

【平成30年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名

【令和元年度】

専任・ 兼任・ 兼任 の別	職名	氏名 <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名
兼任	講師	前川 一貴 <平成31年4月> 博士(文学)
		ドイツ語A ドイツ語B

(注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字としてください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
- ・ 年齢は、それぞれの年度の5月1日時点の週年齢を記入してください。
- ・ 専任(専門職大学等は専、実専、突(研)、突(実)、実)、兼任、兼任の順に記入してください。
- ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成30年度】

- ・教育課程の充実を図る理由のため、水野（今井）千奈津教授の就任を平成32年4月から平成30年4月に変更。
- ・鈴木秀樹助教就任辞退の理由により、須佐公子准教授が「基盤看護学実習Ⅰ」、「生活支援技術Ⅰ」、「生活支援技術Ⅱ」及び「看護方法論」を担当。平成29年12月AC教員審査済み。
- ・甲賀ひとみ講師の氏名変更の理由のため、村田（甲賀）ひとみに変更。
- ・大城聡兼担教授の担当科目変更の理由により、「生化学」を藤縄玲子兼任講師に変更。
- ・宮瀧文二兼担教授の担当科目一部変更の理由により、「考古学A」及び「考古学B」を田中英司兼任講師に変更。
- ・北澤恒人兼担教授の担当科目一部変更の理由により、「哲学A」及び「哲学B」を松村健吾兼任講師に変更。
- ・高尾謙史兼担教授の担当科目変更の理由により、「文学A」及び「文学B」を木村竜太兼担講師に変更。
- ・田中達也兼担教授の担当科目一部変更の理由により、「地理学A」及び「地理学B」を齋野岳兼担講師に変更。
- ・内藤二郎兼担教授の担当科目変更の理由により、「現代社会の諸問題A」及び「現代社会の諸問題B」を野瀬元子兼担教授に変更。
- ・中垣恒太郎兼担教授就任辞退の理由により、「異文化・世界にふれるA」、「異文化・世界にふれるB」、「自己・人間をみつめるA」及び「自己・人間をみつめるB」を津曲真一兼担教授に変更し、「芸術学A」及び「芸術学B」は、他に3名の担当教員がいるため後任補充は行わない。
- ・武藤慎一兼担教授の担当科目変更の理由により、「宗教学A」及び「宗教学B」を津曲真一兼担教授に変更。
- ・無木智子兼担教授の担当科目変更の理由により、「人間と栄養」を石井和美兼任講師に変更。
- ・工藤保子兼担教授の担当科目変更の理由により、「体育実技A」及び「体育実技B」を勝俣康之兼担教授に変更。
- ・杉田明宏兼担教授の身分昇格の理由により、職名を「教授」に変更。
- ・松崎友世兼担教授の身分昇格の理由により、職名を「教授」に変更。
- ・高田未里兼担講師の身分昇格の理由により、職名を「准教授」に変更。
- ・藤井誠一郎兼担講師の身分昇格の理由により、職名を「准教授」に変更。
- ・福島道子兼任講師の就任年度を平成30年4月から平成31年4月に変更し、担当科目を変更した理由により、「地域看護学概論」及び「地域包括ケア概論」を除外。なお当該科目は共同科目であり「可」を受けた専任教員が担当。
- ・柳本茂久兼任講師の担当科目変更の理由により「人体の構造と機能Ⅰ」及び「人体の構造と機能Ⅱ」を成田信義兼任講師に変更。
- ・児島（鈴木）由理兼任講師の担当科目変更の理由により、「ドイツ語A」及び「ドイツ語B」を村瀬（佐藤）民子兼任講師に変更。
- ・高橋明美兼任講師の担当科目変更の理由により、「フランス語A」及び「フランス語B」を佐山一兼任講師に変更。

【令和元年度】

- ・教育課程の充実を図る理由のため、杉森裕樹教授の担当科目に「人体の構造と機能Ⅰ」「人体の構造と機能Ⅱ」「疾病・治療学Ⅱ（急性期・臓器別疾患）」「疾病・治療学Ⅴ（小児・性と生殖医療）」「看護研究Ⅰ」「看護研究Ⅱ」を追加。平成30年7月及び12月AC教員審査済み。
- ・教育課程の充実を図る理由のため、北田志郎准教授の担当科目に「疾病・治療学Ⅴ（小児・性と生殖医療）」を追加。平成30年12月AC教員審査済み。
- ・大城聡兼担教授の就任年度を令和2年4月と変更した理由により、「薬理学」を吉澤一巳兼任講師に変更。
- ・宮本正秀兼担教授の職位を兼担教授と変更し、就任年度を令和2年4月と変更する。「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」、「英語コミュニケーションⅣ」は渡部富栄講師が担当する。
- ・鹿島文博兼担講師の身分昇格の理由により、職名を「准教授」に変更。
- ・佐藤真太郎兼担講師の身分昇格の理由により、職名を「准教授」に変更。
- ・福島道子兼任講師の就任年度を平成31年4月から令和2年4月に変更する。
- ・柳本茂久兼任講師就任辞退の理由により「疾病・治療学Ⅱ（急性期・臓器別疾患）」は杉森裕樹教授が担当し、「疾病・治療学Ⅴ（小児・性と生殖医療）」は杉森裕樹教授及び北田志郎准教授が担当する。
- ・熊谷（金岡）順子兼任講師就任辞退の理由により「英語コミュニケーションⅠ」、「英語コミュニケーションⅡ」、「英語コミュニケーションⅢ」、「英語コミュニケーションⅣ」は藤塚勝正兼任講師が担当する。
- ・成田信義兼任講師の担当科目変更の理由により、「人体の構造と機能Ⅰ」「人体の構造と機能Ⅱ」を杉森裕樹教授に変更。
- ・藤縄玲子兼任講師就任辞退の理由により「生化学」を佐藤匡昭兼任講師に変更。
- ・「哲学A・B」松村健吾兼任講師の定年退職の理由により、北澤恒人兼担教授に変更。
- ・「法学A・B」加瀬幸喜兼担教授の担当科目変更の理由により、植田俊太郎兼任講師に変更。
- ・「社会学A・B」北澤恒人兼担教授の担当科目変更の理由により、酒井計史兼任講師に変更。
- ・「政治学A・B」藤井誠一郎兼担教授の長期海外研究員による令和元年度休講の理由により、岡田拓也兼担講師に変更。
- ・「心理学A・B」高田未里兼担教授の担当科目変更の理由により、小野田竜一兼担講師に変更。
- ・「民俗学A・B」松崎かおり兼任講師の就任辞退の理由により、厚香苗兼担教授に変更。
- ・「文化人類学A・B」中野紀和兼担教授の担当科目変更の理由により、田崎郁子兼担講師に変更。
- ・「体育実技A・B」佐藤亮輔兼任講師の就任辞退の理由により、青葉幸洋兼任講師に変更。
- ・「現代社会の諸問題A・B」野瀬元子兼担教授の担当科目変更の理由により、土居良一兼担教授に変更。
- ・「異文化・世界にふれるA・B」千葉一幹兼担教授の担当科目変更の理由により、土居良一兼担教授に変更。
- ・「キャリアデザインA・B」福井（小川）庸子兼担講師の担当科目変更の理由により、細田咲江兼担教授に変更。
- ・「全学共通特殊講義A・B」寺田浩司兼担教授の担当科目変更の理由により、島井誠司兼担講師に変更。
- ・「ドイツ語A・B」村瀬（佐藤）民子兼任講師の担当科目変更の理由により、前川一貴兼任講師に変更。

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。
 - ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成29年度開設であれば平成28年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) - ① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12 名	6 名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一イにより算出される専任教員数を記入してください。

(2) - ② 専任教員数【大学】

設置時の計画					現在（報告時）の状況				
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	教授	准教授	講師	助教	計 (B)
7	6	7	7	27	7	6	7	6	26
(6)	(5)	(4)	(6)	(21)					
現在（報告時）の完成年度時の状況					現在（報告時）の完成年度時の計画				
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	教授	准教授	講師	助教	計 (D)
7	6	7	6	26	7	6	7	7	27
[0]	[0]	[0]	[Δ1]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
70(※1) 65(※2)	2	2
歳	名	名

(※1) …平成23年3月31日までに採用された教員
 (※2) …平成23年4月1日以降に採用された教員

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、および、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数および完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二段書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。
 [] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：Δ1）

(2) - ④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{26}{27} = \boxed{96.29} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) - ⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{2}{26} = \boxed{7.69} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由			
1	助教	鈴木 秀樹	必修	基礎ゼミナール	①	一身上の都合のため就任辞退（30）			
			必修	コモンスキル ※	①				
			必修	生活支援技術論Ⅰ	①				
			必修	生活支援技術論Ⅱ	①				
			必修	医療支援技術論Ⅰ	①				
			必修	医療支援技術論Ⅱ	①				
			必修	看護方法論 ※	①				
			必修	看護コミュニケーション論 ※	①				
			必修	基盤看護学実習Ⅰ	①				
			必修	基盤看護学実習Ⅱ	①				
			必修	地域包括ケア実習	①				
			必修	統合実習	①				
			必修	看護実践能力強化演習	①				
必修	看護研究Ⅱ	①							
合計（D）				後任補充状況の集計（E）					
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
1	人	必修	14 科目	必修	6 科目	必修	0 科目	必修	8 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	14 科目	計	6 科目	計	0 科目	計	8 科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
 ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担当教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由			
1		該当なし							
2									
合計（F）				後任補充状況の集計（G）					
辞任した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）		①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）			
0	人	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目	必修	0 科目
		選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目	選択	0 科目
		自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目	自由	0 科目
		計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目	計	0 科目

- (注) ・ 一度就任した後に、定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および（ ）書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担当教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記(3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)		後任補充状況の集計 (E) + (G)										
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)						
1 人	必修	14	科目	必修	6	科目	必修	0	科目	必修	8	科目
	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
	計	14	科目	計	6	科目	計	0	科目	計	8	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計(D)+(F)}}{(2) - ② \text{設置時の計画(A)}} = \frac{1}{27} = \boxed{3.7} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由		
1		該当なし						
2								
		合計	後任補充状況の集計					
	辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)	①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)	
人	必修	科目	必修	科目	必修	科目	必修	科目
	選択	科目	選択	科目	選択	科目	選択	科目
	自由	科目	自由	科目	自由	科目	自由	科目
	計	科目	計	科目	計	科目	計	科目

- (注) ・ 定年により退職した全ての専任教員について記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、赤字にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等および() 書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
- ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
- ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

鈴木秀樹助教の後任については、専任補充にむけて教員募集を予定している。
1年次開講科目の「基礎ゼミナール」「コモンスキル」は共同担当であり、他の専任教員で担当できるため学生の履修への支障はない。
「生活支援技術論Ⅰ・Ⅱ」「基礎看護学実習Ⅰ」「看護方法論」については、専任の須佐公子准教授が担当することとし、教育の質を担保する(H29年12月AC教員審査済み)。
H30年度のシラバスは既に変更後の内容で作成して学生に周知している。

(注) ・ 上記(3)の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する「大学の所見」及び「学生への周知方法」を記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (平成29年)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年)	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査時」には、調査結果が公表された年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<スポーツ・健康科学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見直しなど
<p>●入学者選抜方法</p> <p>1) 募集人員と選抜区分 一般入試 22人 大学入試センター試験利用入試 30人 推薦入試 48人 特別選抜試験 若干名</p> <p>2) 大学入試センター試験利用入試 (1) A方式・・・「英語」「数学」「理科(化学基礎、生物基礎、化学、生物から1科目選択)」の3科目600点満点 (2) B方式・・・「英語」と「数学」もしくは「理科(化学基礎、生物基礎、化学、生物から1科目選択)」の2科目400点満点 (3) C方式・・・「理科(化学基礎、生物基礎、化学、生物から1科目選択)」1科目200点満点 ※いずれも化学基礎、生物基礎を選択する場合は2科目の合計得点を1科目として取り扱う。</p> <p>3) 自己推薦入試 学力のみでは測れない熱意・意欲のある個性豊かな人材を求めることを目的としている。高等学校の調査書、自己推薦書、実績等の確認ができる書類等及び面接による総合評価により判定を行う専願制の入学試験である。</p>	<p>●入学者選抜方法 ※2020年入学試験より下記(赤字箇所)のとおり変更を行う。</p> <p>1) 募集人員と選抜区分 一般入試 22人 大学入試センター試験利用入試 20人 推薦入試(公募制推薦入試・指定校推薦入試・大東文化大学第一高等学校推薦入試) 48人 特別入試(自己推薦入試) 10人 特別選抜試験 若干名</p> <p>2) 大学入試センター試験利用入試 (1) 2教科型・・・「英語」と「数学」もしくは「理科(化学基礎、生物基礎、物理基礎から2科目選択もしくは化学、生物、物理から1科目選択)」の2科目400点満点 (2) 3教科型・・・「英語」「数学(数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学Bから1科目選択)」「理科(化学基礎、生物基礎、物理基礎から2科目選択もしくは化学、生物、物理から1科目選択)」の3科目600点満点 (3) 4教科型・・・「英語」「数学(数学Ⅰ、数学Ⅰ・数学A、数学Ⅱ、数学Ⅱ・数学Bから1科目選択)」「理科(化学基礎、生物基礎、物理基礎から3科目選択もしくは化学、生物、物理から2科目選択)」の4科目800点満点</p> <p>3) 自己推薦入試 学力のみでは測れない熱意・意欲のある個性豊かな人材を求めることを目的としている。高等学校の調査書、自己推薦書、実績等の確認ができる書類等及び小論文と面接による総合評価により判定を行う専願制の入学試験である。</p>

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの(未実施を含む。)及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策(FD・SD活動含む)

<p>① 実施体制</p> <p>本学園では「大東文化大学FD・SD基本方針」(添付資料①)を定め、FD、SD活動に関する大学としての指針について明確化した。この方針に基づき、コンプライアンス研修や事務職員人事研修を継続するとともに、教育研究活動等の運営に関する研修や、外部研修を含めた実効性のある育成型研修も含め、実施している。</p> <p>全学のFD活動については、教育内容及び技法の質の向上・改善を図るための全学的な組織として、「大東文化大学全学FD委員会」(以下、「全学FD委員会」とする。)を設置している。また、各学部内にもFD委員会の設置またはFD担当教員が配置されており、各学部等の内容に即した独自のFD活動を行うとともに、各学部のFD委員会委員(またはFD担当委員)が全学FD委員会委員の構成員となることによって、全学のFD活動と学部等のFD活動が関連性をもって活動できる体制をとっている。</p> <p>看護学科においては、全教員対象に基礎ゼミナールでのテーマでもあった「クリティカルシンキング・ロジカルライティング」に関する研修を、外部講師を招いて2018年7月24日、31日と2回にわたり実施し、授業やグループワークの進行などについての認識を深めた。また、2019年1月31日にも看護学科全教員を対象に「看護学領域における英語によるアカデミックライティング-アクセプトされやすいコツ-」というテーマで外部講師による講演を実施した。</p> <p>全学のSD活動については、学園全体の教員および事務職員を対象としたコンプライアンスに関する研修(個人情報保護、ハラスメント、研究倫理等)や、事務職員を対象とした人事研修等を行っている。</p> <p>a 委員会の設置状況 ※全学FD活動に関するもの ○大東文化大学全学FD委員会規程(添付資料②)</p>

- b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む） ※全学FD活動に関するもの
- ・大東文化大学全学FD委員会
 - （委員構成） 学長が副学長の中から指名した者1名、各学部が選出する者 各1名、各研究科が選出する者 各1名、学長が指名する者 若干名
 - 【平成30年度】…平成30年4月27日（第1回）、平成30年5月31日（第2回）、平成30年9月26日（第3回）、平成30年12月7日（第4回）、平成31年1月29日（第5回）、平成31年2月15日（第6回）
- c 委員会の審議事項等 ※全学FD活動に関するもの
- (1) 本学の教育システムに対するファカルティ・ディベロップメントの視点からの分析及び提言、並びに教育効果に関する諸調査の企画、実施及び分析
 - (2) ファカルティ・ディベロップメントに関連する学内外の情報収集とその普及等の広報啓発活動
 - (3) ファカルティ・ディベロップメントに関する講演会、研究会その他の企画及び開催
 - (4) 「学生による授業評価」の策定及び実施、授業評価結果の分析、並びに授業評価結果報告書の作成及び公表
 - (5) 授業評価結果の有効活用その他授業改善に関する取り組みの支援

② 実施状況

a 実施内容

- ・「学生による授業評価アンケート」（報告書の作成等を含む）
- ・「卒業時アンケート」（報告書の作成等を含む）
- ・「大学院修了時アンケート」（報告書の作成等を含む）
- ・FD研究会「シラバス作成方法に係るFD研修会」（平成30年11月5日開催）
- ・研究倫理コンプライアンス研修会（平成30年9月10日開催）

b 実施方法

- ・「学生による授業評価アンケート」…原則として全ての学部開講科目を対象にWebアンケートを実施。
- ・「卒業時アンケート」、「大学院修了時アンケート」…卒業生及び修了生全員を対象に実施。
- ・FD研究会…本学板橋校舎と東松山校舎を遠隔会議システムを利用して中継開催。
- ・研究倫理コンプライアンス研修会…講師による質疑応答を含めた講演形式（90分）。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・「学生による授業評価アンケート」…平成30年7月4日～23日において、専任・非常勤教員計 917 名が参加。
- ・「卒業時アンケート」、「大学院修了時アンケート」…平成30年12月1日～平成31年3月30日において実施。
- ・FD研究会…教員及び事務職員が参加。
- ・研究倫理コンプライアンス研修会…本学「研究活動の不正行為に関する規程」に定める研究倫理教育責任者等に該当する教員及び事務職員が参加。

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

大東文化大学全学FD委員会において、下記の通り、授業改善のための取り組みを行った。

- ・FD研究会については、平成30年度は「大東文化大学全学教務委員会」（本学の教育の円滑な推進及び質の向上を図るため、教務に関する全学的な事項について企画・立案・調整を行うことを目的とする組織）との共催形式とし、各部署のFD意識と知識の向上に努めた。
- ・平成12年度より実施している「学生による授業評価アンケート」は、平成29年度よりWebアンケート方式を採用している。平成29年度では各教員担当科目のうち1～2科目をアンケート対象として実施したが、平成30年度では実施対象科目を拡大し、原則として全ての開講科目を対象にアンケートを実施した。（対象外とした科目は受講者10名未満、複数の担当教員によるオムニバス科目および演習科目（1年次基礎演習科目以外）など）。
- ・全学FD委員会において、本アンケートの集計結果と報告書を作成し、公表する予定である。
- ・「卒業時アンケート」及び「大学院修了時アンケート」の結果についても、「学生による授業評価アンケート」と同様に報告書作成し、学内公開する予定である。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成30年度実施状況は、上記②において記載済み。令和元年度は、後期授業開講時において大学全体のアンケートを実施する予定。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学FD委員会の責任において、本学ホームページへの掲載等を含め、必要に応じて行う。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。
「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
開設前に一部教員の就任辞退があったが、ほぼ予定通りに設置の趣旨・目的に従った体制・設備で開設することができた。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表（予定）時期
毎年度の自己点検・評価活動として、「評価専門委員会報告書」「外部評価委員会報告書」及び「自己点検・評価シート」を年度末（3月頃）に作成し、公表している。
- b 公表方法
・大学ホームページ上にて公開。（平成30年度分については、令和元年5月末に公開予定。）
- ③ 認証評価を受ける計画
平成28年度に評価機関（公営財団法人大学基準協会）による認証評価を受審し、同協会が定める大学基準に適合しているとの評価を受けた。次回は、2021（令和3）年度に認証評価を受審する予定である。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。
また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。
なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書（令和元年度）
- a ホームページへの公表予定の有無 （ ○有 ・ 無 ）
- b 公表有の場合の公表（予定）時期 （ 令和元年 5月末日 ）
- b 公表無の場合の特段の理由 （ ）

(注) ・ 今後公表する予定の場合は、「有」にマルを記入してください。今後も公表する予定がない場合は、「無」にマルを記入してください。

7. その他全般的事項
(2) 教員の資質の維持向上の方策 (FD・SD活動含む)

【添付資料①】

(平成 28 年 12 月 19 日制定)

大東文化大学FD・SD基本方針

【基本方針】

大学運営が高度化・複雑化していくなか、教育研究活動の質の向上及び教学支援、学生支援、管理運営等の諸課題に対応し大学改革を推進していくためには、教職員の能力開発と資質の向上が欠かせない。

本学は、「アジアから世界へ—多文化共生を目指す新しい価値の不断の創造」という大学の理念に沿って教育研究上の目的を達成し、社会の要請に応える大学づくりと大学運営上の諸課題に対応できる教職員を養成するため、FD (ファカルティ・ディベロップメント) 及びSD (スタッフ・ディベロップメント) の活動を積極的に推進する。FDとSDは、企画立案を担うそれぞれの運営主体の方針に基づき、計画性と継続性のある活動として、教職員全体の組織的な機能充実に向け相互補完的に連携をはかりつつ取り組むものとする。

1. 大学は、授業内容及び方法の改善を図り優れた教育システムの提言と構築を実現するため、「学生による授業評価」と授業改善をはじめとする組織的なFD活動を推進する。
2. 各学部・研究科は、各々の教育の特徴を活かした授業改善及び教育の質向上を目指し、FD活動を推進する。
3. 大学は、教学支援、学生支援、管理運営等の各分野において、大学及び高等教育政策に関する知識と理解のもと企画立案から課題解決に至るまで、自らの力で改革を推進することができる教育職員および事務職員を育成するため、SD活動を推進する。
4. 本学の教職員は、教職協働の考え方にに基づき、FD活動とSD活動に積極的に参画する。
5. 教育職員は、大学及び各学部・研究科が実施するFD活動に積極的に参画し、自己の能力開発及び教育研究の質向上に努める。また、大学ガバナンス、コンプライアンス、管理運営の観点から、大学が実施するSD活動に積極的に参加する。
6. 事務職員は、大学が実施するSD活動に積極的に参画し、高等教育政策に関する幅広い知識の習得と自己のキャリアに応じた専門性の高度化に努める。
7. 大学のFD活動は、大東文化大学FD委員会が推進する。
8. 各学部・研究科のFD活動は、大学が推進するFD活動との連携をはかりつつ、それぞれの学部研究科において推進する。
9. 事務職員を主な対象としたSD活動は、総務部人事課及び人事委員会が推進する。
10. 教育職員を主な対象としたSD活動は、学長が推進する。
11. SD活動の内コンプライアンスに関する取り組みは、コンプライアンス推進会議が推進する。

【添付資料②】

○大東文化大学全学FD委員会規程 (平成18年5月15日制定)

改正 平成21年6月15日
平成27年3月18日

平成22年2月22日
平成31年2月25日

(目的)

第1条 この規程は、大東文化学園内部質保証推進委員会及び学部・大学院と連携をとりつつ、大東文化大学における教育内容及び技法の質の向上を目指すことを目的とする。この目的達成のため、全学FD委員会 (以下「委員会」という。) を設置する。

(任務)

第2条 FD委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議検討し、実施することを任務とする。

- (1) 本学の教育システムに対するファカルティ・ディベロップメントの視点からの分析及び提言、並びに教育効果に関する諸調査の企画、実施及び分析
- (2) ファカルティ・ディベロップメントに関連する学内外の情報収集とその普及等の広報啓発活動
- (3) ファカルティ・ディベロップメントに関する講演会、研究会その他の企画及び開催
- (4) 「学生による授業評価」の策定及び実施、授業評価結果の分析、並びに授業評価結果報告書の作成及び公表
- (5) 授業評価結果の有効活用その他授業改善に関する取り組みの支援
- (6) その他、FD委員会が必要と認めた事項

(組織)

第3条 FD委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) 学長又は学長が副学長の中から指名した者1名
 - (2) 各学部が選出する者 各1名
 - (3) 各研究科が選出する者 各1名
 - (4) 学長が指名する者 若干名
- 2 FD委員会の委員長は、前項第1号に定める者とする。
- 3 FD委員会に副委員長を1名ないし2名置く。副委員長は委員会の同意を得て委員長が指名する。
- 4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があつた場合は、委員長の職務を代行する。
- 5 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 6 委員が欠けたときの後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。
- 7 FD委員会は必要に応じて委員以外の者に同委員会への出席及び発言を求めることができる。

(運営)

第4条 委員長はFD委員会を招集し、その議長となる。

- 2 FD委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。
- 3 FD委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(専門部会)

第5条 FD委員会は、第2条の任務を遂行するにあたり、必要に応じて専門部会を設けることができる。

- 2 専門部会には、委員以外の協力委員を置くことができる。

(事務局)

第6条 FD委員会に関する事務は、学務部学務課が担当する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、平成18年5月15日から施行する。

附 則（平成21年6月15日）

本規程は、平成21年6月15日から施行する。

附 則（平成22年2月22日）

1 この改正規程は、平成22年4月1日から施行する。

2 この改正規程の施行に伴い、大東文化大学学生による授業評価実施委員会規程は、平成22年3月31日をもって廃止する。

附 則（平成27年3月18日）

この規程は、平成27年4月1日より施行する。

附 則（平成31年2月25日）

（施行期日）

1. この規程は、平成31年4月1日より施行する。

（規程の改正及び名称の変更）

2. 平成18年5月15日制定及び施行の「大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程」を改正し、名称を「大東文化大学全学FD委員会規程」に変更する。